
今日から勇者になりました

メロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日から勇者になりました

【Nコード】

N0114S

【作者名】

メロ

【あらすじ】

勇者が現れた。勇者はすごい、奇抜な攻撃を操り敵をぶちのめすぜ！逆らう奴も出てくるが、当然ぶちのめす！謝っても謝っても許すつもりは無い、そう言う感情を持ち合わせていない！もちろんいい奴もでてくるぜ。いい奴は、優しくする。だが、あとでぶちのめす！顔が気に入らないから！あと、犬も出てくる。餌をあげるぜ！仲間もでてくるぜ。いろいろあって仲間になる。家のリフォームとか、カーテンの色とかの争いなどを経て心が通じ合う。うそ。とりあえずぶちのめす！パワーの力でね！かわいい子もでてくるぜ、拾

った石をずっと舐めてる！

勇者だぜ

ある日、熱いエナジーを持つ勇者が銃刀法違反（所持）で現れた！
突然！

実は昔から住んではいた！

でも、自分でも勇者だとは思っていなかった！

でも、勇者だった！

これは本当だから信じて！

彼の名前はレイスとか百合ちゃんとか諸説あるがさだかではない！

国語辞典にも載ってないのでわからない！

国語辞典に載っていないことは、人類にとって未知のことがらなのであまり考えなくていい！

15歳だ！

恐らく15から38までの間！

限りなく38に近い15歳！

簡単に言うとなんだけ秒速30万キロ超で動いていた為、時間の進み方がおかしくなったのだ！

嘘だ！

怠け者で、ほとんど寝てばかりいて動かない！

お母さんにいつもナイフを突きつけられ、働けと励まされている！

長さ約30ミリメートルの剣を振り回す、バナナみたいな甘い残り香のスーパー戦士で勇者！

剣は子供から奪った！

力で支配した！

力こそが正義！

力の無い正義など存在しない！

子供を支配するのが勇者！

後々、この子供が強くなれば必然的にそれより強い計算になる！

あと類まれなファッションセンス、しなやかな体型、スマートな顔

立ちどうみても勇者！

お洒落じゃないと勇者にはなれない！

だってみんなのヒーローだから！

懂れ！

ある日、グボボ王国の王様のところに勝手にやってきた！

呼ばれないので、やってきた！

城の人には怒られたけど、会うまで帰らないとゴネたら会ってくれた！

気持ちが伝わった！

だから、王様の頼みは聞いてやる！

勇者はどんなバカな王様の頼みでも聞いてやる！

心が豊かだからね！

「君が勇者ですか？」

「うるせえ！」

怒鳴り散らす！

キレちゃった！

理由はない！

たまに、怒鳴りたくなるんだ！

怒りをコントロールできないんだ！

心の奥にあるマグマが爆発しちゃう！

家来たちはびっくりしておもらししちゃったの！

勇者の迫力はすごい！

もらす！

「え？」

王様はびっくりしたみたい！

勇者の怒りに触れればこうなる！

命があっただけありがたいと思ったほうがいい！

この時点で5割の人は勇者に服の右袖を千切られる！

パワーが暴走しちゃうんだよね！

「なんでそんなこと聞くの？」

勇者に対して質問することは無礼！

「あなたは勇者ですよね？」

王様も敬語になった！

「痴漢」

勇者よりも、痴漢！

痴漢の方が本職！

「痴漢でもあるが勇者でもありますよね？」

「勇者のような痴漢」

ただの痴漢！

家来たちはびっくりしておもらししちゃったの！

おもらしはスタッフがあとでいただきました！

「そうだ、頼みたいことがあるんです」

痴漢はどうでもよくなった！

「えええ！！！なんだって」

ビックリした！

冷静な勇者はあまり驚いたりはしない！

いちいち小さなことで驚く奴はバカ！

クール、実にクールな男がレイス！！！！

「頼みたい事というのは、ドラゴンのことなんだ」

ドラゴンと言うのは化け物！

火を吐いたり、ゲロを吐いたりする！

ゲロを吐く時は体調が悪い時なので、医者に行くことを進めてあげよう！

！

もしくは後頭部を冷やして、布団でねてたほうがいい！

「ドラゴン！？」

最近、グボボ王国にはドラゴンが現れて暴れているのだ！

畑の野菜を食い散らかす！

柔らかい物から食べていく！

歯が弱いんでしょうね！

ドラゴンは本来、山の奥の湿った土の下に住んでいる！

昆虫図鑑に載っていたので、この情報は合っている！

もし合ってなかったら、裁判を起こすぞ！

徹底的に争ってやる！

「ドラゴン退治を頼みたいんだ」

頼みごとをされた！

見ず知らずの王様に！

何も貰ってないのに！

野菜を噛み砕くような顎のパワーのある猛獣を倒せと頼まれた！

こんなことがあると思いますか？

勇者が、そんな危険なことができますか？

下手をしたら擦り傷を負うこともあるかもしれない！

その擦り傷からばい菌が入って、熱をだすかもしれない！

ありえないよ！

危険すぎるよ！

特殊部隊とかがやるべきことですよ！

それようの訓練してないと、無理だから！

それを勇者にやらせちゃうって、どんな危機管理体制？

斧を使って、あちこち壊して回れ

ドラゴン退治を頼まれた！

普通はこんなこと頼まれないよ、でも勇者だから頼まれる！

勇者はつらい！

重労働！

ストレスで右肘に違和感だ！

勇者で、体が強靱なのでこのレベルのダメージで済んでいるが、普通の人なら木っ端微塵に臓器が吹っ飛んでる！

さらば臓器！

臓器の方々、今まで働いてくれてありがとう！

木っ端微塵に吹っ飛びやがれ！

「待ってください王様！！！そんなヤツを行かせるくらいなら、私をドラゴン退治にいかせてください」

王様の家来の中から、あふれるパワーを見せつけ一人飛び出てきた！
筋肉がすごい！

ハリと厚みがある！

油がのっついて、今にも弾けんばかりのボディ！
たぶんステロイドで作り上げたものだろう！

ステロイドはパワーがつく薬！

薬局で売ってるよ！

薬剤師に聞いてね！

「うん。じゃあ、二人で協力してくれ」

王様はすごい仲をとりもつのがすごい！

争いは争いを生む！

憎しみは憎しみを生む！

それでも気に入らない奴を憎みたい！

成功している奴はみんな憎みたい！

自分より上の人間が大嫌いだ！

「その前に、この勇者の実力を試させてください！」

実力を疑われる勇者！

実力よりも虚像で勝負するタイプの勇者なので、実力を出せと言われても困る！

「くっ、なめやがって！！！！体罰を平気でする」

レイスは剣を振り回した！

真空の刃！

厳密には真空ではない！

なぜならば真空状態を作り出すことができないからだ！

化学の力を使えばできるが、非常にコストが掛かるためしない！

コストに敏感！

近づく物はすべて切り刻む！

近づかない物には勝手に近づいて切り刻む！

すり足！

相撲時代に培った技術が生きています！

ストレスが発散されていく！

王様と家来が斬れた！

ワザとではない！

狙ったのだ！

確信犯！

「俺は勇者だ！」

アピール！

知らない人には伝えなければいけない！

伝え続けていかなければいけない、事実！

みんな口々に話してくれよな！

その口を切り刻んでやるからな！

勇者はお喋りは嫌いなんだよ！

「俺は斧の使い手だ！」

パワーがある奴は斧の使い手だった！

斧は木を切ったり、近所の嫌な奴の家を壊したりする道具！

みんなも気に入らない奴がいたら、斧を持って行って家を壊しちゃおうぜ！

壊したら謝れ！

人の物を勝手に壊すのは犯罪だ！

「斧でお前を倒す！」

斧で勇者を倒そうなんて発想がおかしい！

斧と勇者なら、勇者の方が偉いから！

こんな考え方をファンタジーの世界に持ち込むなんて、あってはならない！

「失礼だぞ！謝りなさい！」

「あっ、今のは聞き流して下さい。すみません」

謝った！

謝れば許されると思ってはいけない！

自分が悪いと思ってても認めてはいけない！

認めたら負けだ！

とにかく謝るな！

言い訳をするんだ！

潔くしたらダメだ、しつこく下品に立ち回れ！

「貴様の力を見せてみる」

要求！

力を見せろと！

斧の使い手……！

「俺を試すってのかい？ふーん、おもしろいじゃないの……！」

おもしろい！

王様の顔がおもしろい！

お洒落な人は、肉ばかり食べる

レイスはまた剣を振り回した！！！！

普通の人なら無理だが、勇者は無尽蔵のスタミナがあるのだ！
肉とかよく食べるから！

野菜を食べずに肉を食べ続けることによりスタミナをつけた！

疲れと言うことを知らない！

そして、ムシヤクシヤするんだ！

すべてだ！

すべてにムシヤクシヤしている！

勇者なのに！

王様と家来のやわらかい部分が斬れた！

的確に弱いところを攻撃！

やたらに攻撃すればいいと言うものではない！

常に相手の弱い部分を見つけ、そこに一点集中攻撃！

戦略に非常に深い造詣があるレイスだから簡単にやってのけるが、

普通はできないよ！

「おっと！危ない、当たったら臓器を損傷しかねないぜ！臓器をやられたら、危ないぜ！通院して、薬を飲まなければいけないからな！だから、俺は臓器は必死で守るぜ！」

斧の使い手は、ひらりとレイスの剣をよけると、倒れていた王様の腹を蹴っ飛ばした！

ついでに王様の腹を蹴る！

よける行動と、蹴りが連動！

非常に高度な技術がそこにはあった！

蹴りは鋭い！

日頃、王様の態度にも問題があったんじゃないかな？

「王様！！！！偶然です！すごく偶然です！」

偶然だと言ってみた！

口ではなんとも言えるので！

正直に喋る必要など無い！

そして喋りたくもない！

「偶然とは言え、王様は大切なものですよ。分かっているのですか？」

王様はすごく大事！

国を治める人！

バカみたいな国を治める人！

そしてこの王様もバカ！

しかしこのバカがいないと、いろいろ困ることが出てくる！

このバカは世襲しただけ！

家系だけ！

「は、はい」

いやいや返事する斧の使い手！

王様に怒鳴られている斧の使い手を見て、レイスはノリノリ、めちやごきげん！

人が怒られている姿を見るとおもしろい！

それが大人なら、さらにおもしろい！

「おまえのせいで怒られたじゃないか！！！！」

八つ当たり！

王様の腹を蹴っつてはいけないことは乳幼児だって知っている！

人の腹を蹴っつてはいけない！

みんなも約束だぜ！

約束を破ったら、砂でも食ってろ！

「怒られるのは、怒られる理由がある！それを考えろ！」
すべてのことには理由がある！

そしたら斧の使い手が！

元祖鞭攻撃！

元祖鞭攻撃！

元祖鞭攻撃！

斧の使い手は斧を使わず、鞭で攻撃だ！

フェイント！

策士、斧の使い手！

斧を一旦片付け、その後、鞭を持ち攻撃したのだ！

鞭とは紐みたいなやつ！

叩かれると、痛い！

そして、くらった！

服の、ピラピラしてるところが切れた！

袖のところ！

汁系の食べ物を食べると、ついちゃうようなデザインの部分！

「ちくしょう！これはこないだ買ったヤツで、ファッション誌も注目してるヤツなのに！！！！許しませんよーっ！！」

服を斬るなんて人間として許されざる行為！

ファッション誌も注目しているのに！

世間の流行に敏感にキャッチすることにより、世間の皆様の期待に応える活躍をするのが勇者！

けしてただ流行っているから買ったのではない！

そんな浅い考えでは、勇者は務まらない！

おもらし

まあいろいろおもらした！

したくなったらする！

我慢するな！

我慢するとストレスに蝕まれて病気になる！

そんなこんなで、斧の使い手とドラゴンを倒しにいくことになった！

さすがに勇者と言えど、ドラゴンを一人で倒せない！

めんどろ！

飽きちゃう！

あと、怪我しちゃうと困るから！

痛いのは勇者は嫌い！

人の痛みは好き！

そこで斧の使い手を連れて行くことにした！

斧を使えば、ドラゴンも無事ではすまない！

恐ろしい武器、斧！

まずは、ドラゴンが最後に現れた村に行く二人！

情報収集！

情報こそが作戦遂行に当たって非常に大事！

誤った情報ではドラゴンを倒すことは難しくなる！

村に着くと、村人がいた！

早速、ドラゴンの話を聞こう！

話・・・そんなわけねーだろ！

いきなり掴みかかる！

先手絶対有利！

先に攻撃を仕掛ける！

相手の話を聞くなどという選択肢など持ち合わせていない！

「てめえがドラゴンか！」

レイスは剣で村人を突き刺した！

一撃必殺！

絶対にはずさない！

その技術は豪快さで首都圏の消費者をうならせる！

金が取れるレベルの攻撃！

3D映画にして公開したら、立ち見客で映画館が時空を超える！

「えっ、うっ…村人です」

情報が少ない！

しかし、この人はドラゴンではなく村人だった！

まさかの展開！

「村人か…紛らわしい」

レイスは村人から剣を抜いた！

そしてジャブの応酬で誘い出し、左フックでダウンを奪う！

顔を狙うと見せかけてボディーへ打ち下ろす！

コンビネーションが冴え渡る！

あとおもしろしちやった！

このおもしろこそが、アマゾン川の源流だ！

「いきなり刺すな、レイス！」

いきなり人を刺してはいけない！

勇者だってもちろんそう、あなたもそう！

人を見ても、襲い掛かってはいけない！

まず、話そう！

怖いかもしれないけど、コミュニケーション！

勇気をだして、話そう！

相手もそれを望んでいる！

「一步遅ければ、やられていたのはこっちの方だったぜ」

もし、先制攻撃していなかったらやられていた！

たぶん！

「え…ありがとう。助けてくれて」

感謝の言葉！

勇者が雑魚を助けるのは当たり前！

弱い奴を助けてやる！

虫けらにも五分の魂！

「よせやい。仲間じゃないか」

仲間だから！

仲間じゃなかったら、まず殴ってる！

顔が気に入らない！

村の中をおもらししながら探したが、ドラゴンはいなかった！

おもらしは誰でもする！

いちいち気にせず、どこでもやってしまえ！

モラルに縛られるな！

「ドラゴンがないぞ！」

村の中を探したけど、食べ物しかなかった！

食べ物を勝手に食べた！

うまい！

栄養があるね！

村を食い荒らしたぜ！

悪気はない！

「じゃあ、村人に聞いてみよう。何か知っているかもしれない」

二人は村人に話しかけた！

情報が大事！

村を探すなんて無意味！

酸素を勝手に吸うな！それは俺の酸素だ

「すみません。ドラゴンですか？」

村人に話しかけた！

紳士！

勇者が村人に話しかけるなんて！

通常、村人側から勇者に話しかけなければいけない！

卑屈に、勇者のご機嫌を損なわないように！

「いいえ、違います」

村人はドラゴンではないようだ！

見た感じも、いかにも村人！

ドラゴンと村人はかなり見た目が違う！

勇者ともなると見た目で大体わかる！

服装とかで！

見た目で人を判断してはいけませんが、勇者は判断する！

判断できるから！

この小説を読んでいるような奴らは、無理だから見た目で人を判断するな！

人を見る目なんてないんだから！

この小説読んでいる時点で、見る目がない！

でも、読んでくれてありがとう！

マジで！

しかし、お前らは見た目で判断されているんだからな！

服装とか髪型とか注意しなさい！

「なんの手がかりもなしか・・・」

手がかりはなかった！

得た物は村人から奪った、少しのお金！

なんか、叩いたら村人から出てきた！

村人は簡易ATM！

「ああ、もうだめだ」

二人はそう思ったら、とたんに悲しくなってしまった！

二人の心を悲しみが満たした！

悲しみが心からあふれ出して、口から涎となり滴り落ちた！

つまりお腹がすいた！

人から意欲を奪う物は絶望！

絶望は世界中すべての人が自分を憎んでいるような錯覚を起こさせる！

何もする気が起きない！

何かをしてもうまくいく気がしない！

気がつくんだ！

世界中、目の前の人、すべての人が自分に興味が無いことに！
そしてすぐに忘れることを！

「あのう・・・」

村人が話しかけてきた！

勇者に、気軽に話しかけるとかバカ！

勝手に息をするとかバカ！

酸素だって、ただじゃないんだぞ！

吸わせてやってるんだから、感謝せんかい！

酸素は勇者の毛穴から出ている！

最近の研究でわかった！

詳しくは勇者による、肉体を用いた酸素生成能力と維持についての
論文を読んでくれ！

「ん！？てめえが、ドラゴンか！許さん！」

レイスの電光石火の一撃！！

紛らしわしい奴は倒す！

考えるより、行動をしろ！

思考を行動で超えろ！

人間の伝達を超えた勇者！

「ぐふ、村人です」

村人だった！

このままでは村人を全部倒してしまう！
効率が酷く悪い！

「村人！」

レイスはわざと、ゆっくり剣を抜く！
意図的に！

「そうだ！占いで、どこにドラゴンがいるか占ってもらおう」
いいこと言いました！

すべてが解決した瞬間ですね！

こうやってどんな難しい問題でも、努力すれば必ず解決できる！
困難に打ち勝った！

「さすが斧の使い手、いいアイデア」

褒めながらも、唾を吐きかける！

目の部分を狙え！

生き物は目が弱点！

なぜならば調子に乗らせてはいけない！

あくまでも、勇者が偉い！

「よせよ。それから、斧の使い手じゃなくてテラって呼んでくれ」
斧の使い手は、テラって名前だった！

さっき思いついたので、名前をつけてみた！

嘘、この小説を書く前から決まっていた！

紀元前の頃だね！

「テラ！うふふテラ！オレはレイス！勇者だ」

レイスは勇者だ！

勇者の定義は知らないが、勇者だ！

「じゃあ、レイス。占い師を探しにいきましょう」

二人は、ドラゴンより先に占い師を探すことにした！

急がば諦めろ！

そして楽観しろ！

昔からある諺！

占いを溺愛してみよう

占い師を探せ！

占いはしばしば統計学などと言われることがあるが、そんなことはない！

談じてない！

占いを統計学だなんて笑う奴は、統計学をまるでわかっていない！
仮に統計学で表した数字を参考にうらなう占い師がいるとする、だがそれは占いではなく数字遊びでしかない！

つまり統計学を使った時点で占いではない！

そしてそんな奴を占い師とは言わないし、統計学者とも言わない！
ただのペテン師あと、数字泥棒！

占いとは、科学的根拠などない未知のパワーだ！

占っている本人も説明できないことが前提のパワー！

未知だ！

理論や数式が成り立たない！

立てることすらバカらしい！

根拠無く自信満々に講釈をかますのが占いだ！

だから科学なんてクソツタレなもので、占いを分析してほしくない！
宇宙からのパワーとか地球のパワーだ！

あと感情の中にある幸せの波動がエネルギーとなっているんだ！

すなわちそれは夢だ！

そうであってほしいと望んだ！

夢を見れずに、現実ばかり見ていてはだめだ！

辛い現実があるからこそ、夢を見ろ！

占いで夢を見よう！

夢を見せない占いなぞ信じるな！

未知のパワーで引き出された笑顔は人生の力になる！

だから、占いでドラゴンを探す！

占えば、ドラゴンがしゃしゃり出てくる！
こっちが困るくらい、群れでやってくるさ！
二人は村人に話しかけた！

「すいません。占い師ですか？」

人を探す時は、まず聞き込み！

聞かなくていいことまで、聞き出す！

相手の情報を丸裸にする！

その情報を情報屋に売って金にする！

情報が金になるんだ！

でも、捕まるぞ！

「ドラゴンです」

村人ではなく、ドラゴンだった！

ドラゴンは強いので、レイスは攻撃しない！

君子、強い奴にはペコペコする！

人を見て、威張れ！

誰かれかまわず威張ると、怒られるからね！

それにドラゴンなんて、今は用がない！

用があるのは占い師だ！

そもそも、ドラゴンが村をうろうろするな！

ショッピング感覚か！

とつとつ、山に帰れ！

山の中腹にある平屋の一軒家に帰れ！

そして、時々村に下りてきて畑を食い荒らせ！

バーカ！

「なんの手がかりもなしか・・・」

占い師の情報がまったくくない！

占い師の場所を占い師に占ってもらわないといけない！

想定外！

永遠に占い師の場所を占う！

みんなの永遠の夢、永久機関が誕生した！

しかし、占いはあたらないので失敗した！

永久機関は夢となった！

「ああ、もうだめだ」

二人はそう思ったら、とたんに悲しくなってしまうた！

悲しみの感情はどこからやってくるのだろうか？

右の鼻の穴からやってきた！

悲しくなったら、右の鼻の穴を封鎖しろ！

コンクリート流し込め！

悲しみよ、さようなら！

「あのう・・・何か占い師って聞こえたんですけど」

村人が話しかけてきた！

人の話を盗み聞きするゲス野郎！

いろんな情報が漏洩して、勇者としての株価がどうにかなってしま
うかもしれない！

クリーン勇者が売りのレイスにとって、盗み聞きは許せない！

「ん！？てめえが、占い師か！」

レイスの電光石火の一撃！！

占い師を完全に粉碎したぜ！

老子は受けた怨みを善行にして返すと諭す、レイスは受けた怨みは、
暴力で返す！

どこか、似ている二人の思想！

一概にどちらが優れているなどとは言えないが、レイスの方がすご
いんじゃないかな？

「ぐふ、占い師です」

占い師！

探していた占い師が現れた！

今頃になって！

探している時は見つからず、どうしてもよくなると出てくることって
あるよね！

今は関係ないけどね！

「紛らわしいんだよ！いや、まて。占い師か」

レイスはわざと、ゆっくり剣を抜く！

嫌がらせ！

どんなに急いでいる時でも、嫌がらせは忘れない！

きめ細かい心遣い！

「占い師、聞きたいことがあるんだ！」

占い師にドラゴンの居場所を占ってもらわないといけない！

ドラゴンの生態がわからない以上、どんな生活をし、どんな移動パターンをもっているかがまったくわからない！

もちろん研究している人もいるのだろうが、聞くのが面倒！

聞きたくも無い！

聞いたところで、参考にしない！

最初から嘘と決めてかかる！

「ぐふ・・・」

占い師は汚らしい物を吐いた！

人と話している時に、何かを吐くなんてどんな教育を受けたんでしようかね？

この村の教育水準を疑うね！

「何が、ぐふだ！まじめに聞け！こういう時にふざけるのは不謹慎だぞ」

テラが斧で、占い師を軽く30回殴る！

軽くと言ってもテラの軽くは、一般的な成人男性と同じくらいかやや弱い！

そして、斧と言っても刃の部分なので大丈夫！

斧には色々な部分があって、一番破壊力があるのが刃の部分だ！

絶対に人に向けてはいけない、向ける奴は相当のバカだ！

テラの斧は安全面にすごく重きが置かれていて、斧の持つところが臭い！

あとテラ自体が臭い！

臭いのが本体！

異臭騒ぎで捕まった経験も豊富にある！

道徳の落下速度は加速度運動

占い師に占ってもらおう！

この占い師の得意占いは、一般相対性理論を使った気分とカンで占う！

重力、光、時間、空間とかなんとかを計算してドラゴンで割り算する！

それに気分とカンの方程式を使うと、占いの答えがわかる！

現在特許出願中！

非常に高度な占い！

当たっているかどうかは、当たってみるまでわからない！

間違っている場合は、認めない！

「うーん。計算ができるまで10年くらいはかかるね」

占いは時間がかかる！

でも、今回はそうはいかない！

勇者は気が短い！

カップラーメンはお湯を注ぎながら食べてしまう！

「なら、お前の体だけ、十年今すぐ時を進めろ！さもなくば、倒す！」

概念すら曲げてしまうのが勇者！

そして脅す！

華麗なるコンボ！

「ひえええええ！」

占い師は怯えて声を出した！

「かわいい声だね」

優しく声をかける勇者！

飴と鞭の使い分け！

引き出しの多さを見せ付けた！

「うるさい！子供が起きたらどうするんだ！」

しかしテラは怒った！

子供は近くにいないけれども！

テラはみんなに見えないものが見えている！

そう、思い込んでいる！

「テラ・・・おまえ！ドラゴンに似ているな・・・倒す！」

似ていたら倒す！

あと、顔が気に入らないから倒す！

あと、ストレス解消に倒す！

「待て！俺はドラゴンじゃない・・・いや？俺は・・・誰なんだ！今まで、自分はテラだと思っていた！自分自身がなぜ生きていて、今ここに存在しているか考えもしなかった！そして自分はドラゴンなんじゃないかなんて考えてもいなかった！自分がなぜ、テラであることにチョッピリも疑問がなかった！」

テラは自分が何者かわらなくなった！

もしかした、自分はテラだと思い込んでただけで本当はドラゴンだったんじゃないか？

疑心暗鬼になる！

「いや、あなたはドラゴンじゃないですよ」

占い師が教えてくれた！

占い師が言うなら大丈夫！

安心！

「よかった！ドラゴンじゃなかった！」

「よかったな！テラ、人として生きて人として何かを成し遂げるんだ！」

勇者はテラを人間として認め、これからの人生に精進するように言葉を与える！

なかなかできることではない！

そんなこんなで十年たった！

ついにドラゴンの居場所を突き止める占いが終わった！

占い師によると、次にドラゴンが現れるところは南の都市オルファ

ンらしい！

都市にドラゴンだなんて！

絶対にありえない！

でも、占いでそうだったのでしかたない！

信じるしかない！

今はそれしかない！

地獄に下りてきた蜘蛛の糸だ！

掴め！

南の都市オルファンはマジで都会なので二人とも行ったことがない！

田舎者がいくと、汚い言葉で罵られる！

都会の人は進んでるので、田舎者を見ると肩をパンチしてくる！

「オルファン行ったことないよ」

勇者も行ったことない！

地図では見たことあるけどね！

「オレもない」

テラも行ったことない！

バカ！

二人はそう思ったら、とたんに悲しくなってしまった！

住み慣れた田舎から、都会に行こうとする田舎者の不安はすごい！

押しつぶされそう！

胃潰瘍が何万個もできては消える！

「こんな服でオルファン行ったら恥ずかしいよ」

勇者はファッションに気を使う！

田舎と都会ではセンスが違う！

田舎では浮いてしまうファッションが、都会ではお洒落になる！

逆に気持ち悪いくらいの方が個性的と取られる！

なんかそれで自分をお洒落最先端と勘違いしている人も多い！

服も大事だが、一番大事なのは顔！

顔さえよければ何を着ても大丈夫！

だから、服なんかより顔に金を使え！

整形しろ！

もしくはマスクを被れ！

マスク剥ぎマッチ以外では絶対に脱ぐなよ！

「そう？ レイスはまだいいじゃん。オレなんて、ほとんど裸だぜ」
テラはほとんど裸だ！

大胆と言う言葉を履き違えている！

いろいろ出ている！

内臓丸見え！

服を着こなす能力が欠如！

「オルファンの途中の町でショッピングしていこうぜ」

服を購入して、お洒落に変身なのだ！

変身するたびに戦闘力も上がるぜ！

虫けらども！

容赦せんぞ！

「そうしよう」

テラに少なくとも葉っぱくらいは与えないと、町に入ることすら難しい！

今の状態だと町につく前に、怒られてしまう！

道徳の欠片もない格好！

おにぎりが形になる精神的な過程

二人はオルファンの途中の町にやってきた！

オルファンの途中の町だけど、結構都会だね！

馬車とか走ってる！

馬が人のコントロール化に入り、車を引く！

しかし馬は人の命令など聞く耳などなく、どこでもかまわず走り回る！

人を轢いてもお構いなし！

馬に反省の色なし！

ここには秩序がない！

結構都会！

でも、そんなことはいい！

早速服を買いに店へ行く！

「ひゃううう・うあああああああ！」

勇者は興奮した！

ショッピングは気持ちがウキウキするね！

びくんっ・びくんっ・びくっ・びくっ！

店には服がたくさんぶら下がっている！

手垢のついた汚い手で、服を見て回る！

服で手を拭き放題！

ボタンちぎり放題！

試着して床に散らかす！

「うっうーんいいんじゃない？」

勇者はすごい服のセンスを見通す！

服を縫った人の家庭環境も見えてくる！

「いらっしゃいませ！」

店員が現れた！

服を見ていると出てきて、なんか適当に進めてくる！

服が売れば、似合ってようが似合ってなからうが関係などない！

「口で言ってわかるかな？」

言葉を越えたところに勇者の求める服がある！

店員もプロなので、なんとなくでもわかる！

楕円形の服がいい！

服という空間に、もう一つの空間を内包させると同時に現実から独立し、自足した世界であることを示すためには楕円形を使い服のデザインをする！

現実に対する分析と再構成！

「あ、それならこれですね」

すごい、お洒落！

テラの斧を売ったお金で、レイスの服を買った！

どうせ斧なんて使わないんだから、売った方がいい！

[illegible]

笑いが止まらない勇者！

「ん!？なんだ、あれは？」

道に赤色青色ピンクのおにぎり、落ちてるではないか!!!

道におにぎりなんて怪しい!

色も着いてたらさらに怪しい!

おにぎり屋さんのアピールか?

「あれは・・・おにぎりだ」

勇者は見抜いた!

形だけで、おにぎりで見抜いた!

「それ、美味しいの? 甘い? 辛い?」

テラは一つ、おにぎりを手に取った!

テラはおにぎりを見たことがない!

もしくは忘れている!

「味見してみれば?」

わからなければ口に放り込め!

なんでも口に一度入れてみる!

食べていけないものは、食べるとわかる!

「うん。じゃあ一口」

テラは静かに首をグルグル回した!

みんなやってるから知ってると思うが、おにぎりを食べる時の儀式!

これをやらないと、夏の暑さをのりきれない!

さらに、テラは首をマッハ2でグルグル回した、そしたらバターに

なった!

回しすぎには注意しろ!

なんでもやりすぎはよくない!

節度を持って!

「そう言えば、派手なおにぎりには毒があるって聞いたことがある」

派手な色の物は大体毒がある!

だから、派手な色の物はすぐには口に入れるな、少し考えて口に入

れろ!

「なんだって!!!」

テラはおにぎりを地面に叩きつける！

力任せに！

食べ物にこんなことするなんて、許せない！

人が命をつなぐためには食べなければいけない！

それなのに、これが命をつないでくれる大事な物にとる態度ですか？

「何するんだ！！！」

勇者は剣でテラの目の部分を叩きのめす！

徹底的に目の部分を！

大事な食べ物に悪い態度をとる奴は許せない！

キレちゃった！

「ぐわ」

「毒があるからってむやみに怖がるな！悪気があるわけじゃないんだぞ！暴力では何も解決しない！」

勇者はまた、テラの目を狙う！

徹底的に！

そこしか狙わない！

一点集中！

「すまねえ」

しかし毒のおにぎりは二人で踏み潰した！

毒が入ってる物が食えるか！

「こらあ！！！！俺の育てたおにぎりに何してやがる！！」

変なヤツが怒鳴りながら二センチ前から、二人のところにやってきた！

おにぎり農家の人！

カラーおにぎり

「おまえか！こんな変なおにぎりを育てたのは！」

変なおにぎりを作る奴には、ひとこと言っておかないといけない！
主張するべきことは主張しないと！

世の中には、言わないとわからない人もいる！

そんな奴にはガツンと暴力！

あと言葉による注意！

と、見せかけて暴力！

「そうだ！」

偉そうに！

変なヤツはおにぎりを踏み潰した！

できの悪いおにぎりは踏み潰す！

おにぎりは芸術品だ、できの悪い物はこの世の中に残しておいてはいけない！

芸術家の拘り！

食べ物であり芸術品！

「オレはこの変なおにぎりを食べてしまったんだが、ただちに健康に問題はないのか？」

テラはブルブルふるえちゃってんの！

おにぎりを食べたくらいで、即死することはない！

でも、何かよくないものが含まれていれば後々病気になる！

しかしただちに健康被害はない！

即死しなければ、因果関係はわからない！

とぼける！

賠償には応じない！

「健康に問題なんてないよ！このおにぎりは俺が開発した、カラーおにぎりさ」

変なヤツはおにぎりを踏み潰した！

カラーおにぎり！

おにぎりに毒々しい色を着けたもの！

おにぎりを食べる人の気持ちは考えていない！

想定もしていない！

食欲を減らす！

変な奴が面白半分で開発した！

おにぎりに新しい価値を見出した！

おいしいだけのおにぎりは旧世代の遺物！

未来のおにぎりは体に悪く、色の着いたおにぎり！

一か八か食べてみる！

お腹を壊すくらいですめばいいけどな！

「カラーおにぎり？」

テラはブルブルふるえちゃってんの！

健康に被害が出た！

もしも具合がすぐ悪い時は我慢してください！

忍耐力があなたの体を守り抜く！

あと、保険に入っておけ！

そして諦めろ！

「おにぎりってみんな同じような色でつまらないだろ？だから俺が拾ったゴミを煮詰めて、色をつけたんだ。それにお米を使わずに砂を使ってるんだ」

すごいアイデアマン！

偶然、砂を食べている時に思いついた！

普通はゴミを煮詰めると言う発想はない！

まったく、無駄な行為！

さらに米も使わない！

米とかもつたいない！

そしておにぎりは食べられるって言う、粹を取っ払うことに成功した！

できそうでこれはできない！

おにぎりは必ず食べられなければいけないという、常識に一石を全力で投げ込んだ！

食べられなくてもいいと言う発見により、それまで誰も思いつかなかったおにぎりの価値を解き明かした！

これにより、カラーおにぎりを作ることになったのだ！

普通は作ろうと思わない！

思っても作らない！

「ゴミをリサイクルしているところが実にいい」

ゴミをリサイクルし、より多くゴミを作り出す！

これがゴミの錬金術！

もっと言えばこの変な人もゴミ！

生ゴミ！

君の夢も踏み潰してやろうか？

「カラーおにぎりを売って！お金持ちになるんだ。このカラーおにぎりには夢が詰まっているんだ！おにぎりなだけに！」

変なヤツはおにぎりを踏み潰した！

勇者はこいつの夢も踏み潰してやりたかった！

勇者は変なヤツの顔面を踏み潰した！

徹底的に！

情などない！

あるのは怒りのみ！

ストレスが溜まるとこうなる！

ストレス解消に人の顔を踏み潰すと、すっきりする！

オススメ！

「おまえは、お金持ちになってどうするつもりだ」

お金の使い方も知らないくせに、金持ちになろうとする奴の多いこと！

そもそもお金を見ることがあるのか？

そして通貨を使用できる能力が備わっているのか？

「美味しい物を食べたい！よい家に住みたい」

所詮はこの程度！

美味しい物？

それは何と比べて？

よい家とは？

それは何と比べて？

すべて相対評価！

所詮、誰かと比べているだけ！

アイツより、俺の方が優れている！

優越感に浸りたいだけ！

そんな価値観に金をかけることに意味なんてない！

お金は数字にあらわれる為、評価としてわかりやすい！
だがそれを目標にしてしまつては、本末転倒である！

貧しさは、心も貧しくする！

顔も貧しくなる！

体も貧しくなり、病気になる！

そしてついには心も蝕まれる！

みんながんばろう！

「君のそのカラーおにぎりに皆がすばらしいと思えば、お金はついてくるよ。でも、お金を儲けることを考えるのではなく、そのカラーおにぎりを素晴らしい物にすることを考えるんだ！そうすれば君は、お金持ちになれると思うよ！たぶん無理だけどね！こんなゴミ！センスないよ」

たぶん無理！

ゴミ以外の見方ができない！

どの方向から見ても完全にゴミ！

全方位ゴミ物質！

「そうだね！カラーおにぎりを三角から、俵型にしてみるよ。そして砂から、土にしてみるよ」

形を変えてみた！

素材も変えてみた！

やればできるじゃねーか！

「そうか・・・がんばれよ。俺は勇者さ！ドラゴンを倒そうと思っ
ているんだ」

勇者をアピール！

勇者なのに変なヤツにも平等に話しかける大きな心を持っている！
器が大きい！

大きめの井位はあるね！

割れているけどね！

大きい器は割れていて、人を許す包容力が欠如している！

その欠陥部分が勇者の人間臭さをかもし出しているところなのかも

しれない！

もしくは性格が悪い！

いい意味で性格が悪い！

「へえー。ドラゴンを！……！でわ、このおにぎりを持っていってください。何かの役にたつかもしれませんよ」

勇者はおにぎりを受け取ると、即座に踏み潰した！
荷物になるだけ！

すぐ的確に判断できる！

迷うと言うことがなく、躊躇なく踏み潰してやった！
長い冒険をする上で迷いは禁物！

その一瞬の迷いが、命の危機を呼び込む！

漫画とかで見たから、絶対あってる！

そんな時、テラが紫色になって地面でゴロゴロしている！

踏み潰した、おにぎりを食べたようだ！

卑しい！

落ちている物は、なるべく食べてはいけない！

お腹が空いた時だけにしておけ！

お腹が空いた時だけは、特別な事態なのでなんでも食べていい！
よく判断することなく、口にとりあえず入れておけ！

舌が痺れても、飲み込めば何とかなる！

人間の構造上、胃はすごい！

胃なら胃ならなんとかしてくれる！

頼りになる臓器ランキング一位は伊達じゃない！

「テラ！そろそろいくぞ！」

いつまでも遊んでいる暇はない！

早く、オルファンに行かないとドラゴンがいなくなってしまう！

ドラゴンもいろいろ予定があるだろうから、一箇所にとつというわけにもいかないだろう！

向こうの都合も考えておくのが、気が利く勇者！

急ぐので勇者がテラを踏み潰した！

汚らしい生ゴミ野郎！

人の意見は参考にしない！

こちらの思うようにさせていただく！

「どういうつもりだ！レイス！！！なんでおまえ、そんなことするんだよ！非常に深刻な事故を招きかねないぞ！そんなことしたら！」

理由などない！

ただとにかく、人を不愉快にしたい！

この一心！

心の奥底から湧き出るマグマのような感情に素直になり、身を任せたらこうなった！

理由なんてない、体が欲しているのだ！

DNAが叫ぶのだ！

「お前の喜ぶ顔が最大級に嫌いなんだ！」

テラにはいつも苦しむ顔でいてもらいたい！

心の中を悲しみで満たして、あふれ出させてやりたい！

「ああ、そうなの？」

急にテラは怒って襲いかかってきた！

過酷なトレーニングで肉体を作り上げた勇者が、そんなことで動くこともない！

勇者は毎日鍛えている！

心技体！

すべてを鍛えている！

つけている隙などありはしないのだ！

「なんでカラーおにぎりをぶつけるんだよ！ばか！アホ！」

テラは怒りの罵詈雑言！

言葉は人を傷つける！

時にそれは拳以上の力を持つ！

「うるせえ！ばか！は、反乱か？今度は反乱か？」

真っ青になってガタガタ震えた勇者は、剣でテラをめったざし！
勇者にたてつく奴は許さない！

許されない！

神々の怒りを買う！

最強の力をもっているながらも、向上心を忘れない勇者の剣はまさに瞬殺マッハ2！

電撃居合い斬り炸裂！

人を超えた力を操る！

そしたら、テラはうつむいて！

「ごめん……」

謝
つ
た
！

素直！

「こっちこそ・・・カラーおにぎりぶつけてごめん」

人を許す大きな心！

本当に強い人間は人を許すことができる！

「いいんだよ。この汚いの、結構気に入ってるし。それより、また剣の腕をあげたんじゃないか？」

カラーおにぎりをぶつけられ汚れたが、その汚れかげんが気に入った！

剣による攻撃で全身穴だらけになりながら、勇者の剣の腕を褒めた！人間は体の90パーセントが穴だらけになったら元気がなくなる！テラは80パーセント強なので元気！

「え……そう？でも、テラ。直撃は一発もないんだろ？」

実は直撃はなかった！

直撃はないが穴だらけ！

直撃しなくても威力が十分あるのが勇者の攻撃！

「あ・・・バレてた？」

テラは穴だらけ！

「は
は
は
は
は
は
は
は
は
は」

テラの体の穴にガムを押し込んだ！

綺麗な花が咲くといいな！

[illegible]

テラも勇者も笑った！

もうカラーおにぎりのことなんてどうでもよくなっていた！

人の心は傷つきやすい、どこまでも繊細にして弱いものかもしれない！

でも、だから強くなることができる！

信じあう心はたとえ離れようとも引き合う！

たとえ何も見えない暗闇だとしても、心だけは光輝き道を照らし出すのだ！

闇は、心の中にある

二人はオルファンに向けて歩いていった！

すると、道にドアが転がっていた！

ドアがあつたら開けなければならぬ！

これは古の時代より伝わる、約束！

二人がドアをくぐると、そこは・・・どこでしょうか？

花が言ったよ！

「ようこそ夢の町グレーンムランドに。ぐふふ」

ここは、さては夢の町グレーンムランドじゃないだろうか？

花が言うなら本当！

花は嘘つかない！

花の信用度はすごい！

銀行も信頼して多額の融資をする！

グレーンムランド？

聞いたことのない名前！

二人は変な世界に迷い込んでしまった！

だが、そんなことはよくある！

日常茶飯事！

「どういふことなんだ？ なんだかよくわからないが、これはかなりやばい雰囲気だぜ！ どうすればいいと思うテラ？」

異様な雰囲気を感じとる勇者！

なぜなら、危機感知能力が桁違いだから！

「ちよつと、横になる」

テラはそう言ふと、ごろんと寝転がった！

この状況で横になるつつつ！！！！

怠け者の真価を発揮した！

考える行為を一切しない！

カロリーを少しも消費しない！

「あっそう。何か、欲しいものある？」

差し入れをしてあげる勇者！

怠け者を後方支援！

「コーラとアイスとキャベツ、あと・・・キクラゲ」

まったく統一感のないものを要求するところが怠け者！

思いついたものを羅列しただけ！

「待ってて」

勇者はすぐに、偶然転がっていた冷蔵庫を開けた！

冷蔵庫はいろいろ入っているから、見つけたらとりあえず開けろ！

開けっ放しにしてはダメだぞ！

必ず閉めろ！

コーラもアイスもなかった！

代わりに木にぶら下がったナマケモノと、サニ―レタスは見つけた！

賞味期限は切れていない！

木にぶら下がったナマケモノとサニ―レタスをテラに渡す！

バカなのでコーラとアイスだと思ってる！

「ありがとう！！俺はコイツがすごく好物だね！！いったあ

きまあす」

テラは2・3口舐めたが、すぐに勇者に返した！

「こんなの食べられないよ。化学調味料で舌がビリビリとしびれる

もの」

こんな時でも味には絶対にテラは妥協しない！！！！

味のわかる奴！

まずいものはまずいと言う！

そうしないと、料理人が調子にのるから！

「ところで、ここから出る方法はわかったのかい？」

「うん・・・わかんない」

わからなかった！

なぜなら、考えていないから！

「なんと！賢者テラでもわからないのか！？ちくしょう！これじゃ

どうにもならないじゃないか！」

絶望！

もうダメだ！

死ぬしかない！

「でも二人の友情ドッキング技ならもしかして・・・」

そう言っ、またテラは横になった！

突如生まれた、友情技！

新設定が湧いて出た！

困ると大体こんな感じで打開していく！

「友情ドッキング技だっ？なんだそれは？早く教えてくれ！！！！
じゃないと口に手をつつこんで強引に吐かせる！！！！」

勇者はテラの口に手をつつこんで強引に吐かせるつつつ！

汚い物がテラの口から出た！

これは悪霊なので出てもいいもの！

するとテラのストマックから「ピン・ポーン」呼び鈴が鳴った！！

うまくいった！

みんなも友達にやってみようぜ！

絶対に怒られるから！

「いいか、レイスよく聞け！！友情ドッキング技と言うのはすさま
じい破壊力のワザ！しかしあまりの破壊力に私たち二人もすごいダ
メージを受けてしまう！もしかしたら死んじゃうかもしれない」

テラは夢の町グレーンムランドを、友情ドッキング技で破壊してし
まおうと言うのだ！

こんなことが許されるのかあ？

でもその必要なかった！

「あ！わかった！これはすべて幻でその幻を見せているのはそこ
にある花なんだ！」

真の敵を見抜いた！

勇者の感受性は敏感！

「げええええ！！！！なんだって！すごい衝撃的事実！本当なのかい

テラ？頼りにナアル」

そこでレイスは剣で花をぶっさす！

獄炎スペース破壊突き炸裂！！

花爆発！

すかさずテラも超冷凍永久消滅ソニック！！！！

それが友情ドッキングしてスーパースクリームジェットフラッシュ
になった！

すごいパワー！！！！

空間を切り裂いてすごいパワー！

力がパワー！

一十一が二になりその後、7になりパワーとなった！

変な世界は均衡を保てずに崩壊した！

二人は元の世界に返ってきたのだ！

意外と簡単に戻れた！

でも二人はダメージを負った！

「ぐわあああ痛いね」

勇者は首を寝違えた！

「うん、痛い」

テラは全身の骨が飛び出た！

でも、二人はいつも鍛えているから大丈夫だった！

これが普通の人だったらマジで即死だった！

フランスパンに左ヒザ半月板を差し込む

二人はオルファンに向けて歩いていった！
すると、テラがこんなことを言い出した！

「ゴリラになりたい」

ゴリラはすごいパワーの奴！

人間が努力し、鍛えてもゴリラはナチュラルでその遥か上のパワー
を持っている！

憧れるのも無理は無い！

男なら、一度はゴリラになりたいと思う！！

ゴリラになりたくないと思える男などいない！
いたとしたらチンパンジー派の人！

皆、いつしか無理だと諦めて、ゴリラになろうとしただけ！
現実！

成長する中で、突きつけられる！

そこで気がつく・・・ゴリラにはなれない！！

しかしいい大人になったにも係わらず、ゴリラへの夢を平然と語る！
まったく現実が見えていない！

現実を見ようとするな！

そんなバカ野郎がテラ！

「ゴリラになってどうするつもりだ」

ゴリラになり、ゴリラとし何をする！

ゴリラになることは重要じゃない！

ゴリラとして何をしようとしているかが重要！

ゴリラは過程なのだ！

その先を見なければいけない！

勇者はテラに興味ないが、気を使って聞いてみた！
気を使える大人になろうぜ！

いいか、人に話を聞いて、聞かずに無視はするな！

気分はいいが、嫌われるぞ！

「子供だけを狙って毒霧や反則攻撃など悪の限りを尽くして暴れ回る」

弱い奴を狙い打つ！

非道であり極悪ヒール！

愚零闘・寺！

毒霧殺方！

「それはゴリラじゃなくてもできるだろ？」

「そうだな」

やろうと思えば、今だってできた！

「じゃあ、トイレで水遊びしたい」

トイレで水遊びすると怒られる！

でも、トイレの水はうまい！

トイレの味がする！

ミネラルとかすごいんじゃないかな？

水質調査してないから細かいことはわからない！

「それもゴリラじゃなくてできるだろ」

できた！

普段からテラはトイレで水遊びをしている！

「俺はなんの為にゴリラになりたいんだ・・・ウホ」

テラはなんの為にゴリラになりたいか、わからなくなってしまった！

そもそもどうやってゴリラになるつもりなのか！

そこまでの道筋がまったくといって白紙！

ゴリラまでの具体的なロードマップを提示することができない！

これでは広い海をコンパスも地図もなく、航海しているようなもの！
奇跡でも起きない限り、目的地にはたどりつけない！

「私は旅人なんですが、偶然話を聞いてしまいました。それより、
ゴリラになるなんて簡単ですよ」

いきなり声をかけてきたのは旅人！

盗み聞きするような奴には、高温の熱水を鼻へ強引に押しこんでや

りたい！

「俺は勇者だ！ゴリラじゃない！」

自己紹介の為に特注で作ったテレカを渡す勇者！

テレカの柄は「ボランティア約700人（29） 〓米国〓」だぜ！

将来、ティーンから圧倒的支持を受け価値がうなぎ登り！

お宝！

でも、公衆電話は使えない！

ダンボールで作ったんだぜ！

「ありがとうございます」

「ちょっと待て、ゴリラになるのが簡単だって？」

テラは興奮した！

あの憧れのゴリラになれるかも知れない！

本物を見破る目を持つ

「今からゴリラになります」

旅人はゴリラになる！

まさか！？

人間がゴリラになる？

進化論を逆走！

種の起源への疑問を投げかける行為！

ダーウィンさんごめんなさい！

「うほうほ」

旅人はゴリラになった！

遺伝子情報を変換したとでも言うのか！

そんなことが可能なのか？

「マジだ！これは完全にゴリラ！」

「さて！あれはゴリラになったのではなく、ゴリラになりきっているだけだ！」

ゴリラになったのではなく、ゴリラになりきっているだけ！
見抜いた！

なりきると、なるのでは意味が違う！

本物とモノマネは似ているようで、別物！

勇者の目を欺くことなどできない！

「おいおい、完全にゴリラだよ！うほうほ言ってるぜ！」

テラは感激！

ゴリラはうほうほ言う！

「うほうほ、ゴリラですうほ」

自己紹介！

自分で言うんだから、間違いない！

言語を操る、非常にレベルの高いゴリラ！

「本物のゴリラなら、俺が剣で刺しても平気なはずだ！」

ゴリラは丈夫！

本物のゴリラなら、岩ですり潰してもびくともしない！
むしろ喜ぶ！

そこで、勇者は剣をテラに刺した！

間違えた！

うっかりミス！

でも油断した方も悪い！

テラが悪い！

次はゴリラの番だ！

「止めてうほ！お金あげるうほ」

ゴリラがお金をくれた！

まさか、ゴリラがお金と言う概念を持っているとは！

しかし、ゴリラがくれても人間がくれてもお金にはかわりない！

ありがたい！

「いいだろう！でも、倒す！」

ゴリラを倒した！

勇者は人間でありながら、ゴリラを倒した！

霊長類の中でも勇者は上の方に位置したことになる！

「いいか！勇者は、ゴリラよりも強い！テラ、これからはゴリラで
はなく勇者に憧れる！」

ゴリラより強い勇者に憧れるのが正しい！

「俺もいつか勇者になれるかな？」

テラはゴリラから勇者になることに夢が変わった！

夢を失い、新しい夢を見る！

人は夢を見続ける！

「才能がないから無理」

無理だった！

結局は才能！

努力なんて無駄！

少女は盗賊

二人が南の都市、オルファンを目指して無表情で歩いていた！
表情をだして歩けるもんか！

たとえばニヤニヤしながら歩いていたとする！

それを見た子供達はどう思う？

きつと思うだろ、大人なのにニヤニヤして気持ち悪い！

あと下半身を出して道をうろうろするなんて、非常識！

テラは意図的に出している！

もう、何度も捕まった！

とにかく無表情でいく！

不名誉なレッテルを貼られてはたまらん！

そんな調子で歩いていると、横道から飛び出してきた何かに勇者は

激突された！

勇者は82分、無表情で吹っ飛んだ！

すごい、無表情！

顔にある神経、筋肉、それらをすべて停止させている！

吹っ飛んでる最中に、無表情で眠ったりもした！

レム睡眠した！

永眠もした！

でも生き返った！

「ごめんね」

そう言ったのは、かわいい少女！

少女が勇者に謝罪！！！！

ぶつかってきたのはコイツ！

年齢は勇者と同じぐらいか、年取ってるか若いかわ！

強めの目元に、艶のある口元！

前髪をアップに結んで、リボンピンを重ね付け！

少女はかわいく舌をペロリと出した！

勇者はすかさず腹を立て、真の力とも呼べる聖光アークライトオブ・インパクト！！

少女は光に包まれて蒸発！！
ぶっしゅう！

徹底した攻撃！

謝罪など受け入れない！

「なんだいきなりレイス。ほこりがすごいじゃないか・・・俺の体が汚れちゃうぞ」

テラは通常から汚い！

汚物！

「テラあいつは盗賊だ！ぶつかった瞬間、俺の財布を盗もうとしていた！」

少女は盗賊だったのだ！

勇者の大事な金を奪おうとしたのだ！

金はテラの命よりも価値がある！

金を奪うのは好きだが、金を奪われるのがすごく嫌い！

勇者には、金はもらう物で、払う物ではないという哲学がある！

「なんだって！？恐ろしい早業！そうとうな盗賊だな」

テラはまったく気がつかなかった！

常に金を奪われないか、神経を研ぎ澄まさないばかり！

すべての人が金を狙っている！

それを肝に銘じておかねばならない！

「ああ！相当だ！」

蒸発し、気体になった少女が空中で集まり再び人間の体を成形した！

最近の少女はすぐにこんなことをする！

そして少女は魅力的な笑顔で、ぺこりと頭を下げた！

その視線にドキドキしちゃって勇者は下を向く！

少女の仕草は厚い雲に覆われた勇者の心を光で照らし出したようだった！

かわいいは、いつの時代でも恐ろしい兵器となる！

勇者は少女の顔に唾を吐きかけた！

喉が渴いたら、それを飲みめ！

「しぶとい奴だね」

勇者は、テラの頭にひざげりをしたり、催涙スプレーを浴びせたりした！

ストレス解消！

石の使い手

「じゃあ、俺が拾った石で滅多打ちにしてやるぜ・・・あああ、ひろった石がない」

テラは斧を売ってしまったので、今は拾った石の使い手なのだ！
形のいい石を拾って武器とする！

石は質量を上げれば上げるほど破壊力が増す！

できるだけ大きい石を探して拾う！

ただ、大きい石は持ち運びに不便！

綺麗な石は宝物にして大事にしている！

将来、大好きな人ができたらあげるつもりだ！

「あなたが探しているのはこの石かしら？」

そう言っただけ少女は微笑みながら、石をテラにくれた！

まさか！？

「俺の拾った石は持つところに名前が書いてあるんだ・・・あああ、書いてある！」

なんと少女はあの十秒くらいで、テラの拾った石を盗んでいたのだ！

芸術的！

いや、芸術などと褒めてはいけない！

盗みは犯罪です！

けして自慢できることではない！

反社会的行為！

人の物を盗むなんて、良心は痛まないのか！

悪魔の所業！

「どうだい！？あたしの盗みのテクニク！」

悪びれることもなく、偉そうにする少女！

両親の教育が悪かったのかな？

勉強だけでなく道徳が大事！

「知るか！ばか！魔闘ガトリングアンリミテッド爆！」

テラの拾った石が唸りをあげて、少女を粉々に粉碎！！！！
暴力による教育！

反省するまで殴るのをやめない！

反省しても粉々になるまで殴るのをやめない！

拾った石を取られたから、テラの怒りがすごい爆発してしまったよ
うだ！

「テラ、それくらいにしておくんだ！」

勇者はテラを止めた！

勇者は人を許せる！

過ちを犯した人に、チャンスを与える！

失敗したらやり直せ！

「大丈夫！すべて急所を全力でみね打ちした。俺の拾った石は正確
だぜ」

なんと、急所をみね打ち！

みね打ちの意味を知らないテラ！

かっこいいのと言ってみたのだろう！

それに、テラは人体の急所を知るはずもない！

テラは右手と左手の区別もつかないのだ！

「ひゅーさすが・・・すごい仕事をやってのけるぜ」

時にはおだててやるのも、勇者の人間操縦術！

「ふふ、さすがね。でもあたしの盗みのテクニクも相当なものよ」

少女はかっこつけて、髪をかき上げた！

「知るか！ばか！」

勇者はムシヤクシヤして、テラをビンタ！

爽快だぜ！

「いや・・・レイス。確かに相当なものみたいだぜ」

バカがなんか言っている！

喋るなよ、息が臭いんだよ！

異臭騒ぎ！

近所の人は一時避難しなければいけない！

「テラまで何言っただよ！あと、勝手に喋るなよ！」

テラは勇者の許可を取ってから喋ってほしい！

認可制にしたい！

勝手に喋られると、不快！

「俺の石がない・・・」

なんと少女は攻撃されている瞬間にテラの拾った石を盗んでいたのだ！！

すごい超スピード。

地面に突き刺さる少女

「あたしの名前はコンセ。お宝ハンターさ」
少女の名前はコンセだった！

お宝ハンター！

お宝ハンターは宝物を探して、持ち去る！

人の財布も盗む！

盗賊兼、お宝ハンター！

まともな神経ではできない！

「知るか！ばか！」

ここで勇者の隠された力が爆発！！！！

超技！！！！

ターボ飛翔龍神爆ドロップパート2！！！！

炸裂！！！！

勇者の技は豊富！

常に技の開発に尽力しているからね！

お宝ハンターコンセはすごいダメージを受けて、地面に突き刺さった！！！！

硬い地面に突き刺さるということは、すごいこと！

みんなもやってみよう！

頭が割れるように痛いぞ！

やりすぎると割れるぞ！

割れたら手術してなおそうぜ！

早期発見、早期治療が健康への合言葉！

「まあ、話くらい聞いてやろうぜ。レイス」

テラはすぐくまるでやさしい！

話をきいてやる姿勢を示した！

お互い話し合いをすることで、分かり合える部分があるかもしれない！

言葉はどんな暴力より時に力がある！

「どういう意味だね？」

勇者は剣をテラの急所に無造作に突き刺した！！！！

テラの意見など聞くだけ無駄！

時間がもったいない！

勇者は言葉より先に突き刺す！

「申し訳ありません。失言でした」

謝るテラ！

勇者に意見するなぞ身の程知らず！

イエスマンに徹しろ！

それが賢い生き方！

強大な力に楯突くなんて考えるな！

小物は小物らしく寄生して生きていけ！

「まあいい。賢者テラがそう言うなら聞こうではないか」

さすがの勇者も、賢者テラの言うことだけは聞いてしまうのだ！

気が変わった！

気分で見解をコロコロ変える主義！

リーダーには必ず備わっている能力！

これがないと、みんなの意見がまとまってしまう！

常に現場を混乱させるのが、リーダーの資質！

「どう？仲間にしてくれない」

誤った判断が死に直結するこの世界で、そう簡単に仲間にしてやる

ことができようか？

信頼があって初めて仲間にできる！

「いいんじゃないか」

野菜を買うような感覚！

即決した！

決断力の塊が勇者！

「うん。レイスがいいなら俺はいいぜ！よろしくなコンセ。俺はテラ！そっちがレイス」

テラが勇者を紹介した！

その紹介の仕方が気に入らなかったのも、勇者の制裁がテラにくだった！

テラは目に砂を擦り込まれた！

マッサージ効果と、眼球破壊効果がある！

絶対に、人にやるなよ！

そしてコンセは簡単に仲間になった！

人との出会いは突然、それは何かの運命！

嘘、気のせい！

運命などそうそうない！

「ありがとう。レイス、テラ」

コンセは礼儀正しく、お辞儀してまた地面に刺さった！

角度がすごい！

高角度お辞儀！

知恵があああ出ちゃうよおお

「これからよろしく。レイス、テラ」

コンセが仲間に加わった！

ついに女性がパーティーに加わった！

男性ばかりでは、つまらない！

話を作るのも飽きる！

でも、女性が加わるにより話に広がりが出た！

四畳半から、東京ドーム三杯分くらい話が広がりをみせる！

そして三人寄れば知恵があふれ出す！

知恵が止まらないよ！

ああああ、止めてよ！

知恵を止めてよ！

頭がどうかなっちゃいそうだよ！

出そうとしてなくても湧いて出てしまうよ！

「ちよつと、腹減ったな」

勇者は道の草を根っこの部分から抜く！

根っこから必ず抜いてくれ！

そして土は落とす！

苦いからね！

ひと手間加えるだけで、ただの草が店で食べるごちそうにはやがわり！

道に生えている草はごちそう！

小腹がすいた時は、迷わずに口に入れろ！

考えるより、食べろ！

食べてから、考えろ！

思考より先に草を食べてみせろ！

牛にあげる草を残しておく気遣い無用！

草を食べ尽くして、荒野に変えてしまえ！

「にゃーん」

突如、テラは猫のものまねをした！

猫のものまねをしろと、天空から指令が下った！

天空からならしかたない！

猫のものまねをする！

天空からの指令を受けれるのはテラだけ！

天空には国があり、住んでいる人がいる！

テラが言っていた！

「どうしたの、大丈夫？二人とも？」

心配そうなコンセ！

勇者は草を食べ、テラは猫のものまね！

大丈夫ではない！

異常事態！

「ん、こんなの平気だよ。てへへ、ごめんね」

勇者の作り笑いが痛々しい！

草を頬張る！

草は踊り食いに限る！

口の中で、草が踊る！

いえいーい！

勇者も踊る！

手足を伸ばし、舌を突き出して走り回るダンス！

今年はこのダンスの話題で持ちきりじゃないかな？

「少し黙っていたほうがいい」

そう言っ、テラは手近な石を三つ縦に並べた！

重大な意味がありそうで、ない行為！

三つ縦に並べた石に手をかざし、猫のものまね！

本物の猫はこんなことしない！

テラのアレンジ！

「ここに寝るといいよ」

テラは石を並べて、勇者を誘導した！

「うん」

勇者は寝た！

石がツボを刺激して、体の疲れが吹き飛んだ！

あと新しい仲間が加わり、すごくパワーアップした！

暴力を超える暴力

三人が歩いていると、風にのって楽しい歌が聞こえてきた！

こんな楽しい歌を聴いたら、無防備に近づかずにはいられない！
涎たれ放題！

たまらねえええ！

「何だ？この歌は、楽しいなあ」

勇者は剣を振り回して踊りだした！

人の迷惑を気にしない！

いちいち気にしていられない！

誰かを傷つけても、楽しく踊りたい！

そんな気分！

テラとコンセは斬られた！

剣を振り回す人の側にいれば当然そうなる！

斬られる方にも落ち度はある！

むしろ斬った方が損をしてるよ！

斬られた人は謝ってほしい！

「どこかでお祭りでもやってるのかしら？」

お祭りならば、この楽しい歌も納得がいく！

どんな名探偵も疑問に思わない！

「やることないから、この楽しい歌がするほう行ってみようぜ」

やることなく、暇な勇者達！

楽しい歌を聴いたので、ドラゴンのことは忘れた！

忘れるってことはたいして重要ではない！

ほいほい歌の聞こえる方によっていく！

警戒心なぞない！

「待て、レイス！モンスターの罠かもしれないぞ！この楽しい歌で誘っておいて、待ち伏せて俺たちを倒すつもりかもしれないぞ」

罠かもしれない！

何時だって危険は待っている！

注意しないとすぐに何者かにやられてしまう！

勇者がやられると、世界は希望をうしなう！

みんな泣いちゃう！

おしっこも漏れちゃう！

恥ずかしいよ！

「あはは、あははあははあははー」

勇者は歌が楽しくて、テラの話なんて聞いてなかった！

そもそも常にテラの話は聞いていない！

何を喋っているかわからないから！

もう、歌しか聴いていない！

楽しい歌は人間の中樞神経を麻痺させる！

勇者の中樞神経も例外ではないのか！？

「ダメだ。歌が楽しくて、レイスは話を通じない」

勇者には話を通じないのだ！

「しょうがない。コンセ、ここは歌の聞こえる方に行ってみよう」

三人は歌の聞こえる方に向かって二十分、歩いて行った！

意外と距離があった！

休み、休みだけどね！

歌が聞こえた先には、おじさんがいた！

歌の正体はおじさん！

おじさんの正体は歌！

「お前か！この楽しい歌を歌っていたのは！」

テラが怒鳴った！

すぐに怒鳴るのはバカの証！

みんなの周りにも、こんな人がいたらバカといってやれ！

怒鳴っても何も解決しないんだからね！

問題を解決するには殴れ！

暴力だ！

暴力こそが解決方法！

「そうだよ。てか、あとちょっとで先生来るよ!!」

先生がくる!

まさかの先生登場!

「あ!! うん」

三人が少し待っていると、先生がきた!

何かの先生!

「超爆獄裂シュートンボックス!!!!」

勇者は剣を先生に向けて投げつけた!!!!

これは勇者の奥の手なのだああああ!!!!

この技までださせる先生の実力は計り知れない!

先生は爆発した!

ざまあみろ!

「レイス、どういうことだ?」

「テラ・・・気がつかなかったのか? こいつらは楽しい歌で人の心を操って、なんかしようとしていたんだ」

恐ろしい悪巧みを実行する前に、破壊した!

勇者はワザと罠にはまった振りをしていたのだ!

仲間も見抜けぬ演技力!

ハリウッドスター!

「ええええ!!!! まさか・・・」

テラは驚いた!

バカはすぐ驚く!

「先生!!!!」

楽しい歌をうたっていたおじさんは、ガクガク震えちゃってるの!

震えているのは怖いのではなく、別の病氣!

おじさんの体は、不摂生によってポンコツになっている!

若いふりをしていても、息はきれるし節々は悲鳴をあげる!

歌はすばらしい

「お前は何者だ！」

テラが先生に右フックから踏み込んで、一気にダブルレグでテイクダウンを奪う！

おみごと！

「私？私は石丸理恵っていうよ」

先生の名前は石丸理恵！

ここまで漢字の名前の登場人物がいなかったのに、突如あらわれた！世界観なんて最初からないので、別に問題ない！

一番の問題は文章が読みにくいことだからね！

いや違う！

読み手の問題だ！

読み手の能力が、この文章力についてこない！

高度すぎてゴメンネ、ふへへへへへ！

「石丸さんね！！」

テラは石丸の立ち上がりざまにフックを連打する！ただでは立ち上がらせない！

「うん。てか、理恵でいいよ」

石丸先生はフランク！

そこでテラの鞭がうなりをあげ、コンセを襲う！

テラは鞭を持っていたのを今まで、忘れていた！

読み直して思い出した！

忘れていた人は読み直せ！

「なんで！？」

コンセはいきなり叩かれたので、驚いた！

いきなり叩かれた時は、驚いてもいい！

むしろ驚かないほうに、驚く！

「顔か気に入らない」

テラはコンセの顔が気に入らない！

かわいいのが余計に鼻につく！

自分がどう見られているか考えながら行動している！

かわいいことを理解して、ワザとかわいくない態度をとる！

「ああ、それはわかる」

勇者も納得！

感情が共有された！

人と人は悪口で分かり合う！

「なんでそんな顔してるの？わざと？意図的にやってるならかなり悪質だよ」

石丸はコンセの顔に唾を2リットル吐きかける！

なぜか石丸も入ってきた！

虐めはこうやって広がってくる！

虐めなければ、虐められる！

嘘！

虐める気が起きないほど、はみ出れば大丈夫！

だから勇者は虐められない！

派手にはみ出る！

「ぐわああああ」

コンセは汚くなった！

かわいい顔を汚す！

「石丸さんは楽しい歌で人の心を操ろうとしてたの？」

勇者は石丸に剣を何度も突き刺しながら聞く！

剣が勝手にやっているの、勇者の意思とは関係ない！

止められない！

「ただ、歌の練習してただけです」

歌の練習だった！

石丸は歌の先生！

学校で声楽を学び、今や歌の先生となり、弟子を育てている！

そして高い月謝はふんだくり、歌がうまくならないのは練習が足り

ないからと言ってさらに特別料金を取って歌を教える！
膨れ上がった会員を集め、町を作りその主となった！

今では各産業に自分の歌の弟子を送り込み国を操ろうとしている！
うまく行った時は歌のおかげ、うまくいかない時は歌の練習が足りない！

「何！？ただ練習してただけ・・・レイス。これはただの歌の練習らしいぞ」

テラの鞭がコンセの首を締め付ける！

鞭が勝手にコンセを懲らしめる！

今までの罰の清算を勝手に行う！

権限などないが、罰は受けてもらう！

鞭の意思！

鞭の意思を尊重しなければいけない！

「どうやら。俺の勘違いだったようだな。しかし、用心するにこしたことはないからな。俺は勇者だから、いつモンスターに襲われるかわかんないから」

勇者と言うだけで、モンスターは狙ってくる！

奴らにとって勇者は倒さなければいけない敵なのだ！

それが生まれ、死ぬまでの目標！

もちろん生きている中で、勇者に会うことのないモンスターもいるがそれはそれでいい！

むしろその方がモンスターにとっては幸運！

なにしろ勇者と戦うと言う作業は命がけだから！

別に勇者に恨みがあるわけでもないのだし、できることなら勇者に会わずに死にたいと考えるモンスターの方が大半なのだ！

そして勇者に油断という文字はない！

だから勇者なのだ！

「わかってもらえましたか？」

「先生。この辺にお宝はないの？」

コンセは盗賊なのでお宝に目がないのだ！

「宝、あるよ」

なんと宝があるらしい！

女の子はいいにおい

「宝！？すごいな！探そうぜ！」

テラは盗掘者！

宝があれば他人の墓をぶち壊す心意気を持っている！

でも、墓の主の呪いを受けて血を噴いて死ぬ！

しかたない宝探しは、楽しいからね！

「待て！宝より先に俺達はやることがあるだろう！ご飯食べた、おしっこしたり！」

勇者は、宝を探すより先にやることがある！

もっと崇高な目標の為に旅を始めたはずじゃないのか？

宝探しながらしている暇なぞない！

「俺達は何をするんだっけ？」

テラは何をするか忘れた！

一つのことを考えると、一つ忘れるタイプ！

そしてすべてを忘れ、路上でゴロゴロする！

こんなはずじゃなかったのに・・・！

いくら嘆いても、遅い！

決定的に遅いのだ！

「えっと・・・宇宙戦艦になる」

勇者は宇宙戦艦になりたかった！

今、明かされた壮大な夢物語！

宇宙戦艦になり宇宙を飛び回る！

広い宇宙を目的もなく、あっちへこっちへ！

かっこいいだろ？

それがこの旅の目標であり、なすべきこと！

「レイスが宇宙戦艦、じゃあ俺は？」

テラは何になるのだろうか？

「テラは宇宙になるんだろ？宇宙がなきゃ、宇宙戦艦は飛べないか

らな」

宇宙があつての宇宙戦艦！

テラは宇宙に就職して、宇宙になるのだ！

宇宙はテラから始まった！

それがこの旅の終着点！

「宇宙って！？ドラゴン退治に行くって言ってなかった？」

コンセによって、旅の目標が思い出された！

スケールが非常に小さくなった！

ドラゴンとか宇宙戦艦に比べたら、簡単すぎる！

「ドラゴンかぁ。ドラゴンはテラのお母さんじゃないのか？」

それくらいのドラマが用意されていなければ、話が盛り上がらない！

盛り上がりようがない！

毎日、何を食ったか書いてある日記以下のエンターテイメント性しかない！

「さすがにそれはないでしょ」

コンセは呆れてため息をついた！

息がいいにおい！

これをおかずにご飯が食べれる！

ご飯のお供にどうぞ！

特許だから、真似したら裁判するぞ！

「そう、言い切れるかな？」

テラはにやりと笑った！

まさか、お母さんがドラゴンなのか？

ってことはテラはドラゴン！

ドラゴンを倒すのが旅の目的！

テラを倒せば、旅の終わり！

終わりは、突然やってくるものだ！

宝がしゃしゃりでた

「どこに宝があるの？」

コンセは興奮して先生を岩に叩きつける！

岩の硬い部分は避けてはいるよ！

人にものを聞く態度って大事！

絶対に岩に叩きつけてはいけない！

気難しい相手はへそを曲げるぞ！

下手をしたら、話を聞いてくれなくなる！

とにかく頭を下げて、心の中で舌を出せ！

頭を下げすぎて、地面を舐めるくらいでいい！

地面はおいしい味がする！

「宝の場所は・・・今のショックで忘れた！」

忘れてしまった！

こんなに都合よく、宝の情報だけ消えるか？

最近のゲームのセーブデータより弱い先生の脳！

「先生！前世は覚えてるか？」

勇者は宝より先生の前世のことに興味がある！

みんなも前世には興味あるよね！

これを読んでいるあなたの前世は、公園のトイレです！

もっと細かく言えば、公園のトイレの便器の陶器の部分！

こっちには見えてるから！

前世、丸見えだから！

まぶたを閉じれば、昨日のようにあなたの前世が浮かび上がってくるから！

「私の前世は紙粘土だよ」

先生の前世は紙粘土！

うらやましい！

前世では図工の時間、工作で使われたことでしょう！

「俺は勇者だから、前世も勇者だな」

勇者の前世は勇者！

代々、勇者は勇者、途中に中トロ、締め、電池で口をさっぱりさせる！

伝統の勇者！

勇者は一日にしてなれない！

長い歴史の中で築き上げられたノウハウがなければ無理！

ちなみにテラの前世は低反発ウレタン素材、コンセはドブの土！

どこことなく現在のキャラと被るところがある！

顔も前世に似ている！

「お前も岩にぶつかってみろ」

テラがコンセを岩に叩きつける！！！！

おもしろ半分！

軽いイタズラ！

何度も何度も岩に叩きつける！

まるでそれが義務のように！

人にやったことは返ってくる！

廻る！

親切にすればそれも返ってくる！

人には親切にしようぜ、何かもらった時だけ！

「んで、どこに宝があるのか、教えてもらおうじゃないか！教えな
いと、ぶっ殺す！」

勇者は先生の腹を執拗に蹴飛ばす！

シヨックにはシヨックを持って、対応する！

なんかサッカーみたいでおもしろい！！

「宝は西にあるみたいだよ。あとは、わからない」

先生の情報は漠然としていて、情報ではなく噂話レベル！

噂話は本当である確立が高い！

台形の面積を求める式を使うとわかる！

ゴシップ雑誌は本当のことしか書かないっておばさんが言っていた

から本当！

情報の見極めをする必要はない、出てきた情報はすべて信じる！
そして右往左往する！

パニックになってしまおうが、そのうち忘れるので大丈夫！

「ありがとう」

勇者は先生にお礼を言った！

何かしてもらったらお礼を忘れるな！

人間の完成度の高い人は、ありがとうの一言を忘れない！

逆にありがとうを言えない人は、ダメな奴が多い！

ゴシップ雑誌から得た知識だから信じて！

肉で命が延びました

「宝を見つけないと西に行きましよう！」

コンセはお宝ハンターなので、お宝があれば行きたくなくなる！

お宝ハンターにも専門があり、芸術品、古文書、貴金属など多岐に渡る！

コンセは芸術品が専門！

絵とか好き！

絵の具ではビリジアンが好きで、おやつにはビリジアンの臭いを嗅ぐ！

職業病！

「宝を見つけてどうするつもりだ！」

宝は見つけることより、その宝をどうするかが問題だ！

宝を金に換えてしまうのか？

そもそも宝はなんなんだろうか？

宝の定義は？

「肉を食べようぜ！」

テラは宝を売り払って肉が食べたい！

肉は食べれば長生きできて、病気にもならない！

そのうえおいしい！

肉を食べ続けてないといい人生はおくれない！

いい人生とは、肉に不自由しない生活！

国際的にも幸せの基準は肉の消費量に比例すると言われている！

「肉とか激シブ！私も、宝を売って肉を食べるに賛成！」

肉を食べることに反対する奴はいない！

肉への厚い信仰！

肉への感謝を持ち続けろ！

「みんながそう言うなら、俺も賛成！宝を見つけて肉を食べようぜ！」

勇者も肉が好きだ！

ステーキを枕に寝ている！

布団もステーキ！

顔や体がヌルヌルして美容効果がすごい！

保湿されてんの！

肉汁が体を包み込み、安眠効果も抜群！

お宝を見つける為に、三人は西に向かって歩いていった！

「ちょっと待って！私たち、西に向かっているのよね？」

コンセは急に立ち止まり、周りを見回した！

山を切り開いた、細い道！

木は茂り、右も左もわからない！

「そうだが？」

テラは不思議そうにコンセをイヤラシイ目つきで見た！

犯罪予備軍！

女の人を見るときは注意しろ！

絶対に舐めまわすように見てはいけない！

実際に舐めてはもつといけない！

少しなら舐めても大丈夫と言う油断が、警察のお世話になる！

捕まれば、家族、親類、に顔向けできないぞ！

「私たちは何を基準に西に歩いているの？」

三人はコンパスを持っていなかったの、適当に歩いて西に向かっていた！

適当に歩くと、なかなか西には歩いていけない！

これはマジで本当！

コンパスなしに正確に西に歩けたら、磁石人間！

「俺は勇者だぞ！」

勇者は地球を俯瞰で見ることができる！

だから西に正確に歩くことができる！

地図なんていらない！

頭の中で正確に測量できる！

軍事衛星も驚きの能力！

宝が見つかる

宝を南の都市オルファンで売って、おいしいものを食べることにした！

おいしいもの？

肉に決まっているだろ！

子供から老人まで大好きな肉だよ！

肉のためならみんな殴りあうよ！

肉以外、まずくて食べられないよ！

舌がしびれるよ！

「肉はいいけど、宝はどこかしら？」

コンセは道の石をひっくり返した！

宝は大体、石の下にある！

そういうパターン！

もしくは宝は形ではなく、みんなの心の中にある！

金にならない！

気持ちより、金！

とにかく金にさえなればよい！

「この付近にはあるはずだ！探そう！」

テラは穴を掘り出した！

怪しい、縦穴！

明らかに、人の手が入った形跡がある！

そして大きな石にぶつかり、他のルートから掘りなおす！

これを繰り返していればいくらでも話を長くできる！

徳川埋蔵金発掘プロジェクトから学んだ、話を引き伸ばす方法！

話に詰まったら、怪しい文書発見！

「無闇に穴を掘り返してもらちがあかないぞ！コンセは、お宝ハンターなんだろ？こんな時はどうするんだ？」

勇者は賢いので、無闇に土は掘らない！

疲れるし、手が汚れる！

お宝ハンターのノウハウがあれば怖いもなし！

「まず、なぜここに宝があるかを考えないと」

何の理由もなく宝があるはずはない！

ここに宝がある理由があるはずだ！

宝は奪われないように隠す！

隠すなら、人に見つけられないようにする！

見つけやすいように隠す人間はいないのだ！

「適当に掘っても見つからない」

テラは土を掘る手を休めた！

バカだから疲れるまでわからない！

「宝を隠すほうも、ある程度目印になるものが必要なはずなのよ」

コンセは付近を見渡し観察する！

すると古い廃墟を見つけた！

怪しい！

「あの廃墟・・・怪しい。みんなで見に行ってみましょう」

廃墟に隠してあるか、それともあの廃墟が目印かはわからないが情報がないので、お宝ハンターコンセに頼る！

「あったー」

勇者は宝を見つけた！

「ええ！どこで見つけたの？」

付近に歩いていた人から聞いた噂話や伝説を元に、情報を精査し木の下を掘ってたら、地下室を見つけ、扉の鍵に暗証番号を入れて中に入り、部屋の中にあった魔法の鏡に光を反射させて文字を浮かび上がらせ、その文字を古代文字にし、それをまた魔法の鏡を使い反転させて、古代文字を現代文字に直し宝箱の場所を知り、宝を見つけたのだ！

そして見つけた宝箱には、宝箱が空かないように細工してあったが水につけたり、火であぶったりすることで宝箱自体の圧力を変えることで開けた！

勇者はお宝ハンターではないので、難しいことはできないが大丈夫だった！

宝箱には宝石が入っていた！

やったぜ！

これを売って肉が食べられる！

下着の色への執着

「なあ、レイス・・・」

テラが勝手に喋る！

誰の承諾も得ずに！

図々しい！

「どったの？」

「下着の色への強い思いを抑えられなくなった・・・」

テラは安どの表情を浮かべ踊りだした！

下着の色に興味のない人間はいない！

だが、それを人前で言っていけない！

周りの人からすごい目で見られるぞ！

世間体を考えろ！

何があっても世間体だけは死守するのだ！

「こないだ下着の国から招待状がきたんだ・・・嘘だと思うだろうが、もう少し聞いてほしい」

下着の国があるらしい！

下着の国には郵便物届けてくれるサービスもあるらしい！

意外と進んだ国！

「何くだらないこと言ってるの！もう！こんな変質者おいて早くいこうよ、レイス」

コンセはため息混じりに言った！

コンセでなくても変質者だと思う！

普通なら警察に突き出してやるところ！

「おい、コンセ・・・お前の下着の色は何色だ？」

テラはコンセの下着の色が気になる！

まさか、あんな色ではないだろうか？

そんなことを考えていると、たまらなくなってしまうんだ！

答えを聞かせてほしい！

さもないと、悩んで8時間くらいしか寝れなくなってしまった！
睡眠をとらないといずれ死ぬ！

「はぁ！？」

コンセは下着の色を教えるつもりはない！

道に歩く女性に下着の色を聞いても教えてくれない！

もちろん、仲間でも教えてくれない！

つまり教えてくれる人はまずいない！

「こんなこと言って変だと思うだろ？でも聞かずにはいられないんだ・・・頭が下着の色のことでいっぱいなんだ」

頭の中に下着の色が詰まっている！

レントゲンで見ればわかる！

完全に頭の中に下着の色が格納されている！

「おい・・・コンセ。なんだかわからないが・・・普通じゃないぜ」
勇者はわかった！

テラは普通の人ではない！

本来なら、捕まって牢屋で暮らす人だと言うことが！

「ええ、完全なヘンタイよ」

このエピソードにより、女性のファンは寄り付くことがなくなった！
でも安心してほしい、最初から女性に人気はなかった！

むしろ意味もなく憎まれていた！

「おいテラ。じゃあ聞くんが、ドラゴン退治と下着の色どっちが大事なんだ？」

これはすごく重要なこと！

ここが最後の砦！

「そ・・・それは。色にもよるし、枚数、柄とかいろいろ複雑な事情が絡み合っていて一概には言えないよ」

砦は簡単に壊れた！

「そうか・・・ところで、テラはドラゴンの下着の色は何色だと思う？」

ドラゴンも下着をつける！

全裸ではみっともない！

「え！？ドラゴンの下着の色だって・・・わからない」

「俺もわからない」

「どうしてもよすぎる・・・」

誰にもドラゴンの下着の色はわからない！

ドラゴンに近づき、確認するまでは！

ドラゴンの下着に比べれば、コンセの下着の色なんてどうでもいい！
どうせ汚い色だ！

ダイエット

三人が南の都市オルファンに向かって歩いてしていると大事件が起きた！

「俺は少し太りすぎではないだろうか？」

テラは自分のお腹に手を当てた！

テラは今まで、お城で兵士として不自由なく暮らしていた！

おかげで太った！

むさぼり食っていたのだ！

口になんでも入れてきた！

食べられる物、食べられない物！

区別などすることなく、ただ口に入れてきた！

味も、歯ざわりなども考えることなく！

ただ、口に放り込む作業！

「兵士だったら、運動していたんじゃないの？」

兵士は体を鍛えるのが仕事！

戦争がない、この地域では兵士は体を鍛えることが仕事！

平和がテラを狂わせた！

「兵士で太るなんて、おかしいわよ。普通の兵士はみんな筋肉もりもりなもの」

ドーピングに次ぐドーピングで作り上げた肉体！

兵士は見た目も大事！

筋肉の量で、強さは決まらない！

「俺は体を鍛えるのは好きじゃない！アンチ、運動タイプの兵士なんだ」

体を鍛えるなんてバカらしい！

楽しい夢の世界に行く為に必要なのは、筋肉ではない！

多くの人に無視されて、気持ち悪い視線にさらされてもこの気持ちは変わらない！

「そんなに言うなら、太ってもいいじゃない」

テラが太っても、コンセは興味がない！

「いいのか！俺が醜く太っても！そばにいるお前たちまで、好奇の目で見られるんだぞ！」

テラはどこまで太るつもりなのだろうか？

際限なく質量を増やし続けるのか！

「やせればいいだろ！」

勇者は的確に答える！

無駄な言葉はいらない！

答えだけ！

「やせさせてくれ！いい、ダイエット方法を教えてくれ！」

「そうね」

ダイエットと言えば女の子！

必要がなくてもやせようと必死になる！

綺麗になりたい欲望が渦巻いている！

「その場をグルグル回り続けるダイエットは？」

場所をとらずに手軽にできる！

時間をかければ、凄まじい運動量になる！

膝の骨が粉々になるまでやり続けるのがコツ！

絶対にやせる！

「運動はダメだ！動きたくない！動かずにやせたいんだ！」

テラは動かずにやせていきたい！

「じゃあ、食事かしら？食べなければやせるわよ」

食わずにやせる！

体には悪いが絶対にやせる！

体が壊れてもやせたい人にはオススメ！

体なんていずれ壊れんだから気にするな！

体が壊れて無くても、お前らの人生なんていいことないよ！

目標の為には耐えろ！

体が悲鳴をあげて、脳が助けを求めても無視をしろ！

圧倒的な精神力！

口に錠をかけてやれ！

最初から自分は食べ物を食べない生物だと思い込め！

「無理だ！俺は意思が弱い」

テラには無理だった！

「それならこれはどうだ！」

勇者のとおっておきのダイエット！

これは絶対に聞いておきたい！

すぐには教えない！

ストレス

「教えてくれ！意思の弱い俺はどうすればやせられるんだ」
意志の弱い人にはダイエットは向かない！

太り続ける！

ならば、意思に関係なくやせる方法にすればいい！

「ストレスをコントロールすればいいんだ！」

ストレスをコントロールすればやせることができる！

ストレスが肥満を駆逐するキーワード！

「そんなことができるの？」

コンセは疑っている！

それもそう、ストレスをコントロールすることは難しい！

しかしストレスを減らすコントロールは難しいが、増やすことは難しくない！

ストレスを与え続けることにより、食欲を司る神経を木っ端微塵に破壊する！

食欲と言う悪魔をぶちのめすのだ！

二度と食いたいなどと、なめた信号をおくれないようにな！

これによりダイエットする！

まったく新しい方面から考え出された、勇者式ダイエット！

体への負担は考えない！

いちいちそんなものを考えていたら、ダイエットできない！

楽しいダイエットなどありえぬ！

七転び、永眠！

「ストレスで食べてしまうこともあるだろう？」

ストレスで食べてしまう人もいる！

しかしストレスで食べようとしている人から、食べ物を奪いさらにストレスを与えたらどうなると思う？

わくわくするだろ？

死角はない！

やせるか死ぬか、道は二つ！

忘れていた、やせたあと死ぬ道もある！

「なんか話を聞いただけで、私はストレスでやせそう」
コンセには早くも効果があったようだ！

「そのストレスダイエットを試してみるか」

テラは試してみることにした！

チャレンジ精神！

無謀！

引き返すことはできない！

一度、足を踏み入れれば足をとられ沈んでいく！

浮き上がることはできない！

もがけばもがくほどに、落ちていく！

「まずは酸素を十分に体に与えないことにより、生きていることへのストレスを与える」

いきなりレベルの高いストレス！

大抵の人がここでやせていく！

苦しくて、苦しくて！

なんの為にやせようとしているか、そのことに疑問をもつ！

テラの呼吸の回数を制限する！

好き勝手に空気を吸うなんて、贅沢！

「ダメだ、苦しい！息を吸う！」

テラはすぐに苦しくなって息を吸う！

「無理よ、こんな方法」

「口と鼻を土で埋めよう。今のテラにはいらぬ物だ」
息を吸えないテラには必要ない！

勇者はテラの口と鼻を埋めた！

一見、酷いようだがダイエットの為にはしかたない！

「なんか、ダイエットって言うか拷問じゃない？」

拷問ダイエット！

一週間、繰り返していたらテラはやせた！
そしてテラは、あまり喋らなくなった！

あんなに陽気だったテラが！

いつでもジョークばかり言っていたテラが。

ダイエットし、脂肪と一緒に何かなくしたテラ！

事件

三人が南の都市オルファンに向かって歩いていると大事件が起きた！
事件はむやみに起こる！

話の都合！

なんと、雨が降ってきたのだ！

雨に濡れてはたまらん！

傘を持っていない！

もうダメだ、死のう！

雨に濡れれば寒気がきて、肺炎になり命を落とす！

助かって、その病が持病となりいつか命を落とす！

雨は絶対に濡れてはいけない！

危ない！

命のいらない奴だけ浴びろ！

「雨宿りしようぜ！」

テラが周りを見渡すと、ちょうど家があった！

ちょうどよく家があらわれる！

絶対に怪しい！

殺人事件が起こりそう！

三人はとにかく家にやってきた！

「開けろ！」

勇者は家のドアを蹴り飛ばした！

これが勇者の流のノックだ！

手を使うのが面倒！

手がダメなら、足でやってやれ！

すると家の中から住民が出てきた！

勇者は蹴り飛ばした！

邪魔だから！

家の中に入ろうとしている人の前に出てくるなんて、邪魔以外の何

者でもない！

邪魔者は蹴散らす！

「雨が降ってきたぞ！」

三人は家の中に入っていく！

家に入りながら、家具をぶち壊す！

さりげない、嫌がらせ！

この家に居座るつもりだ！

絶対にだ！

雨だからしかたない！

「ごめんね」

コンセは謝りながら、住民の服から財布を抜き取った！

お宝ハンターなので、財布はもらう！

仕事だから！

これはビジネス、雨宿りとは別の話！

三人は家の中に置かれている椅子に座りくつろいだ！

自分の家以上にくつろぐ！

汚してもいいので気が楽！

他人の家だからね！

「雨宿りですか。どうぞ、休んでいてください」

「そのつもりだ！」

テラは椅子を蹴飛ばし、床に寝る！

あれーおかしいな

「俺はお腹がすいたぞ！」

勇者は、お腹かがすいた！

こんなに空くかね？

病気を疑うよ！

さっさと食事を用意しない住民はどうかしている！

この発言が出る前に、普通は食事をだす！

気遣いがほしい！

言われてからやるなら誰でもできる！

そこなんだよね！

その辺で差が出ちゃうんだ！

「あ、今すぐ用意しますね」

住民は家の奥に料理を作りに行ったようだ！

遅い！

グズグズしてるから、君はそこ止まりなんだよ！

行動力！

これは人生全般に言えるから！

「レイス、何かおかしくない？」

「何が？あの家の人の顔か？」

人の顔をあまりバカにしてはいけない！

こっそり笑うくらいにしておかなければいけない！

直接は絶対に言うなよ！

「そうじゃないわよ。家の家具を壊されているのに、怒りもしないし。今も素直に料理を作りに行ったし」

普通は、知らない人に家具を壊されたら怒る！

雨宿りもさせない！

そこから導き出される答えは！

「あの人は、ここの本当の住民じゃないんじゃないの？」

それなら、家具を壊されても怒らない！
よくある推理漫画の展開！

本当の住民はすでに今の人に殺されているみたいな！
だとしたら・・・！

殺される前に、殺さなければいけない！

勇者が、殺されてはたまらない！

「どうする？」

勇者は剣を取り出した！

こいつで斬りかかれば、事件は解決できる！

事件は暴力で解決できる！

推理より先に手が出るタイプが、勇者！

「まだ、殺したって決まったわけじゃないでしょ」

決め付けはいけない！

「でも、これから殺すかもしれないぞ！いや、いずれ殺す！」

いつ殺すかもあっちのさじ加減！

「どうしたんですか？そんなに慌てて！今日は雨がやみそうにない
ので、泊まって行ってください」

悪魔の誘い！

絶対に殺される話の流れ！

見たことあるもの！

メガネのかけた、餓鬼が推理する奴で！

でも、よく考えたら雨に濡れるよりはいいので泊まることにした！

そうと決まったら、楽しくなった！

テンションが上がって、鼻血を噴出すコンセ！

レイスは、止血の為にコンセの足を蹴飛ばした！

痛みを痛みで打ち消す！

今回は、鼻血なのでまったくの無意味！

そして住民と、ゲームを始めた！

奇声

住民とゲームを始めた勇者！

ゲームのルールは簡単で、今まで聴いたことの無いような奇声を上げ続けるだけ！

先に奇声を上げられなくなったら、負け！

このゲームは子供から、お年寄りまで簡単にできるからお勧め！
つまらないよ！

「いいか、始めるぞ！」

住民と勇者は奇声を上げた！

奇声！

聞いているだけで、頭痛を催す！

二人の奇声は公害！

二時間後、勇者の声はさすがに弱くなっていった！

住民はまだまだ元気！

悪魔の喉を持っている！

生まれながらに奇声を出すことに長けている！

そこで、コンセに奇声を出させ勇者は休憩にはいる！

勇者には友情で結ばれた仲間がいるんだぜ！

仲間を信じていればいいことがある！

お金を騙し取れる！

一人でかなわなければ、二人でやってやれ！

勇者は水を飲み、喉のケアをする！

喉のケアを怠らないことが、奇声を出し続けるコツ！

喉のケアを疎かにすれば、喉が痛くなる！

食事を取る！

お腹が空くと奇声がでない！

声は喉が大事だと思うのは素人の思考！

本当に大事なのは腹！

腹を大事にしないと、みんなの嫌がる奇声を出すことはできない！

食事を取ることににより、奇声を出したときに嘔吐しやすくする！

不快感を飛躍的に上げることが出来る！

この、細かい工夫が説得力をもたらす！

嘔吐物を撒き散らしてやるのさ！

勇者に代わりコンセが奇声を出す！

さすがに住民も弱ってきている様子だ！

水も、食事も取れずに奇声を出し続けられそうなる！

「もう止めろ！これは殺し合いじゃないんだぞ！」

勇者は、奇声を出しあうコンセと住民を止めた！

このまま奇声を出していれば、いずれかどちらかが死ぬ！

歳をとるか、病気になり死ぬ！

そんな二人を勇者は見えていなかった！

見たくもなかった！

やさしさ！

七不思議

ゲームが終わると、突然住民がこんなことを話し始めた！

「この家には七不思議があるんです」

どこの家にも七つくらいは不思議がある！

七つで終わらないこともある！

こんな小説を読んでいる、お前みたいな奴が生きているのも不思議！

そして書いている奴がいる不思議！

これだけで二つもある！

探せばいくらでもある！

「七不思議？おもしろいわね」

コンセは非科学的な現象が大好き！

だからいつも天狗と交信もしている！

天狗は鼻が長い化け物で、団扇を使い仰いでくる！

夏は涼しくていい！

冬は寒い！

時期を考えろ！

仰げばいいってもものじゃなだから！

よく考えて！

一年を通した、天狗のありかたを考えて！

そして天狗からの返事はまだない！

もし返事がきた時は、コンセがぶち壊れた時！

「この家の七不思議は聞いたことあると思うんですよ。何か知っていますか？」

この家の七不思議は有名だった！

オカルト情報誌の常連！

真相のよくわからない情報を根拠もなく載せる！

これがまたおもしろい！

事実確認のとれる事柄は大体つまらない！

よくわからないからこそおもしろい！

毎週、心霊現象をオカルト情報誌に投稿している！

捏造ではなく演出を駆使することにより、心霊現象を生み出す！

住民は職人肌！

雑誌の定期購読者からは手品師と呼ばれ、異端児扱いを受けている！

「知らないです！」

勇者は知らなかった！

これは恥ずかしいことではない！

知らないことは、知らないと言える勇気を褒めていただきたい！
むしろ知ったかぶりする事のほうが恥ずかしい！

「では、教えましょう！まず、一つ目！夜、不気味に笑う」

住民は意味もなく、夜に笑う！

これは不思議であり、不気味！

恐らく、不思議な力で笑ってしまう！

こんなこと普通の神経ではありえない！

科学的に見ても説明がつかない！

昼間でなく夜と言うのもおかしい！

活動時間の長い昼間に笑うのが自然、夜に笑うなどと不自然極まりない！

何を思って笑うのか？

笑えるようなことがあるのだろうか？

笑われることはあっても、笑うなどおかしい！

これは何の異論もなく七不思議の一つ！

教育水準

住民は七不思議を喋り始めた！

聞いてもないのに！

「アタシね、お肉が大好きなんです、ええ。菜食主義なのに、そうです、菜食主義なのになんです、菜食主義なのに、ジュ、ジュ、ジュジュア、って肉を焼くんです、ええ。ステーキなんか良いですね。今日の昼飯も勿論ステーキですよ、今から昼飯の為に焼くんです、ええ。アレ？菜食主義なのに肉を食べてる。肉みたいな草かなあ？ハーブなのかなあ？なんて思っていると、うわあああああああ！牛です、牛の肉なんですそれ！夜中の台所で、牛の肉を次々に焼いているんです。それも一枚や二枚ってもんじゃない。アタシあホント、ゾーッとしましたよ。菜食主義の皆さん、気をつけてくださいねえ。ええ」

恐怖の話が終わった！

ステーキの話！

肉を食べると、力が湧き出るというエピソード！

「まだ、二つ目よ！どうする？」

コンセはつまらない話を聞いたせいで、眠くなった！

「ここまできたら、最後まで聞こうぜ！」

勇者は、七不思議を最後まで聞く決心を固めた！

普通なら、怖くてぶるぶる震えてしまう！

勇者は強い心を持っているので、平気！

むしろ、心地よい！

「いいのですか？七不思議を最後まで聞いた人は、何か起こるといわれています」

七不思議を最後まで聞くと何かが起こる！

何かはわからない！

多分とんでもないことが起こる！

体の臓器が爆発したり！

爆発にいたらないにしても、飛び散る！

「いいぜ！三つ目を聞こう！」

ついに七不思議は三つ目まできた！

しかし三つ目は現在、休業中の為話することができない！

「もうしわけない。三話目は現在点検中の為話することができません。軽く、概要を説明しますと。金縛りだと思ったら、自分で体を縛っていた話です」

三話の概要を聞いて、あまりの狂気に寒気を感じた！

偶然、自分の体を縛り付けてしまうことってよくあるよね！

この話を聞いたおかげで、怖くて自分の体を縛ることができなくなってしまった勇者！

「おい、おい。点検中でこの怖さかよ！しゃれにならないぞ！これじゃ、心臓がいくつあっても足りないぜ！」

勇者は怖くて、自分の頭を鷲？みしてうずくまった！
恐怖に怯える！

「これって、怖いのか？しかも不思議でもないんじゃない？」

コンセは馬鹿で、感受性がないので何も感じない！

教養があり、しっかりとした教育を受けた者しか感じ取ることができないのが七不思議！

教育水準の低い者は、話を理解することができない！

火薬の調節

七不思議の話は夜通し話され、朝方には208話まで行った！
敵のロボットが、恋をした！

そして叔母さんが、叔父さんになった！

それを見て、僕は緑色になった！

そのころには、七番目の話なんて忘れていた！

忘れるってことはたいした話ではなかったんだろう！

それに飽きた！

コンセとレイスは4話目の時点で飽きて、住民の家に火を放ったり
していた！

火責め！

過去幾多もの戦に使われてきた、最強の兵法！

勇者はもちろん、それをマスターしている！

勇者に火をつけられない物はない！

燃えやすい物があれば、考えるより先に火を放つ！

そのおかげで、家は燃えてしまった！

住民の思い出とともに家は燃えた！

物は燃えても、思いでは消えない！

怨みも消えない！

家に火をつけることは悪いことだから、絶対にするなよ！

今回の場合は、親切心が裏目に出ってしまっただけ！

部屋の埃を焼き払おうと、油をまいて火をつけた！

油と、火薬の量を間違えた！

トンで火薬を使うのは、素人には難しい！

絶対に専門家に指導を仰いでください！

今回に限っては一か八かやってみたら、失敗した！

しかし悪いことばかりではなかった！

家がすっきり綺麗になった！

もともと壊すつもりだったのが、早まっただけ！

むしろ住民は喜んでいる！

お菓子をくれる！

甘いのがいい！

「まさかこんなことになるとは！」

レイスは悔しそうに天を見上げる！

が、フェイントだ！

高等なテクニクを平然とやってのける！

「私の家が・・・」

住民は困った！

家がないのはすごく困る！

「これは七不思議を話したことによるものかも知れないわよ！霊的な何かが、爆発して火事を起こしたのでは？そう、考えるのが常識的であり、正道！」

コンセは推理してみた！

推理をすれば答えがしゃしゃり出る！

七不思議の、呪の力は恐ろしい！

みんなは遊び半分で、七不思議に手を出してはいけない！

これは警告だ！

「お金を借りて、家を建てるんだな」

勇者アドバイス！

お金を借りれば、家を建てられる！

「借りても、返せないですよ」

返すことができない！

「借りる前から、返すことなんて考えるな！借りて、使ってから考えろ！貸してくれなくなるまで借りてから、返すことを考えろ！」

勇者アドバイス！

経済にうとい人は、返すことばかり考えてしまう！

そんな考えではダメ！

圧倒的に借りてから、返すことを考えないと！

勇者は、住民からアドバイスをもらった！
ただではアドバイスしない！

小さな子が好きなタイプ

三人はやっと南の都市オルファンについた！
まさかつくと思いましたが？

こんなみすばらしい顔で！

ここまでのいろいろあった！

近所の人に食いちぎられたり！

中学三年の長男（14）に羽が生えたり！
フライドチキン

頸椎ねんざで都内の病院に入院したり！

トリュフを探す豚の中心に超巨大ブラックホールがあることがエックス線観測などで分かったり！

鼻が取れたり、くつついたり！

土を食べ続けるおじいさんを、川に流したり！

新しい知識や、経験を投げ捨てたり！

そんなことを乗り越えたら、ついた！

オルファンすぐく都会で、みんなオシャレだ！

田舎のオシャレはここでの最下層！

地べたを這い蹲るゴキブリ！

むしろ服を着ないほうがマシ！

服を着るとセンスがないのがバレル！

バレたら最後、この町では生きてはいけない！

斧で突然襲われる！

「いい服買っておいてよかったぜ」

レイスは新しくてかっこいい服を着ているので、まるでモデルさんのようだ！

本気じゃないのにオシャレなのが勇者！

少し、力を入れればもっとオシャレになる！

「俺はパンツ一枚だけだな」

テラはパンツ一枚しかはいていない！

しかも汚いパンツ！

小さな虫たちのフンがついている！

自然と虫たちが、そこにフンをするようになった！

自然の営み！

宇宙の意思！

「あのさあ、なんでテラはパンツ一枚なの？」

コンセはテラに聞いた！

完全に犯罪者の格好だからだ！

犯罪をしてなくても、これからする！

絶対にする！

痴漢関係のことをする！

そのような格好！

みんなも街中でパンツ一枚になるな！

警察官に岩にたたきつけられたあと、池に投げ入れられるぞ！

安定コンボ！

確実にダメージを与えるぞ！

「こんなこと言うと、まるでヘンタイのようだが・・・パンツ一枚で、町を歩くとゾクゾクするんだ。こう、なんていうかな・・・口では説明できないが、何かがあるんだ。私がパンツを求め、パンツは私を求めた。それは真実なんだ、すごく、すごく。魚が水がないと生きていけないように、私もまた、パンツでないと生きていけないんだ」

完全におかしい！

テラはいずれどこかに収監されると思う！

「そんなことより、宝を売っておいしいもの食べようぜ」

テラがどうなろうといい！

そもそも仲間じゃない、他人！

パンツ男は他人！

おいしいものが大事！

ガラクタを売りつけろ

レイス達は宝を売りに骨董屋さんに来た！

見つけた宝は売る！

価値はよくわからないけど、金になる物は売る！

売れる物は人の所有物も売る！

この世界の物は勇者の物！

普通の人がやったら犯罪だよ！

路上でパワーボムをされても文句言えない！

もし、パワーボムを受けたあとで文句が言えたらプロレスラーになることを薦める！

あなたはタフなレスラーだ！

勇者だけに認められた特権で、物はなんでも売れる！

「いらっしやい」

骨董屋の主人は物の価値がわかる人がやる職業です！

「売りたい物があるんだ！」

「ほう、見せてもらいましょう」

「これだ。醤油味の宇宙人・ホッとやさしい顔の宇宙人」

これは道で拾った！

宝の前の、前哨戦！

この価値をどうみるかで、この骨董屋の目利きをぶりを調べる！

「う・う・うん？見たことのない珍品を道で拾ってしまえるのが勇者！

骨董屋でも見たことのない珍品を道で拾ってしまえるのが勇者！

「これは食べ物だよ。舐めるとおいしいよ」

テラはとりあえず、なんでも口にいれる！

口に入れてから考えるタイプの人間！

ゴミばかり食べて生きている！

人間ゴミ箱だぜ！

「いいでしょう買いましょう」

売れた！

こんな気持ちの悪い物が売れた！

なんと500メンドンになった！

一ドル、100円と考えると、メンドンの貨幣価値の目安となるでしょう！

「じゃあ、次は肉眼ではとらえられないコシヒカリ100%」
肉眼では捉えられない！

心の目で見えるコシヒカリ！

さつき勇者の心の中からあふれ出た！

奇跡が勇者の心に起きたのだ！

普通はないけど、勇者ならある！

これだから勇者はみんなに尊敬されてやまない！

「見えない」

この骨董屋の心の目にはコシヒカリは映らなかった！

だからって買取拒否は許さない！

出された物は買い取るのが骨董屋！

拒否はルール違反！

骨董屋の風上にも置けぬばか者！

「買うのだ！」

勇者は気に入らない時は、中身が入ったままのペットボトルやゴルフボールを投げつけたりもする！

大抵は三日も投げ続ければ言うことを聞く！

「わかりました、買いましょう！」

なんと500メンドンになった！

このペースでいけば、店を奪うこともできそうだ！

勇者の交渉術は、底なし沼！

一度交渉すれば、すべてをむしり取るまで終わることはないのだ！

タルタルソースには卵の代わりに各地の小中学校を使用

骨董屋さんにあるものないものを売りつけ続けた！

店の権利書も取り上げ、土地も奪った！

これからは勇者がこの骨董屋の主人だ！

店はこの人に貸して、賃貸料と売り上げをいただく契約となった！

これでお金の心配も少しは減ったかな？

「いい交渉ができた！現金も手に入っただし美味しい物でも食べようぜ！」

勇者は金を手に入れた！

金が力だ！

金があればなんでもできる！

人の心だって買えるんだ！

人の心なんて今の時代、コンビニに行けば買い放題！

人の心なんて安いもの！

「俺はてんぷらが食べたい」

テラはてんぷらが好き！

てんぷらはいろんな物に粉をつけて油で揚げた食べ物！

「あたし、お肉が食べたい！」

肉はおいしい！

万病に効く！

すぐ効く！

でも、食べすぎには注意しろ！

コンセがそんなこと言うもんだから、テラがおもらししちゃったの！
もともとテラはおもらししやすい！

我慢しないで、出たくなったら出す！

だから皆からは嫌われていて、訴訟ばかり起こされる！

テラはてんぷらのことを考えただけでお腹が空いて、土やら小枝を口に詰めちゃった！

「大発見！土と小枝を一緒に食べるとメンチカツの味がする」
都市伝説が生まれた瞬間である！

すべての都市伝説はこんな風に生まれてくる！

新しい星が生まれる瞬間のように奇跡的一瞬を目の当たりにできた
君たちは、歴史の証人となった！

「本当かおう！？」

しかし簡単には信用できない！

理屈から言っておりえない！

メンチカツの要素がひとつもないからだ！

メンチもなければカツもなく、メンチカツになることなんてあるの
だろうか？

アインシュタインでも疑う！

「じゃあ、レイスもやってみてください」

薦めるテラ！

「レイス、そんなバカの言うことなんてほっておきましょうよ」

バカだからってバカにするなんてひどい話！

バカにバカと言って、理解できるはずかない！

バカなんだから！

理解できればバカではない！

「食べてもいないうちに、批判するなんて卑怯です！食べていただ
かないと！」

批判は食べてから！

理屈や理論よりも今、目の前で起きていることを見るんだ！

真実は机の上にあるのではなく目の前にある！

テラは土やら小枝を口にほおぼって言った！

「そんな物、食べられるわけないでしょ！」

「うひょおおお！こ、こりゃこりゃ。うまいですよ」

レイスも夢中になって土や小枝を食べている！

おいしかった！

マネしてもいいけど、責任は自分で持つんだ！

それに鋭敏な舌を持っている者と、鉛の舌の君たちでは味の感じ方が違う！

メンチカツの味がしないのは、君たちの舌がアレなせいだ！
なんでメンチカツの味がしないという抗議は筋違いだ！

ひったくりを繰り返して、長い旅路に向かって元気に泳ぎだす大統領

「土や小枝でお腹が膨れてしまいそうだ」

テラは食べるのを止めた！

欲望をコントロール！

できそうでできないことだ！

食べたいからって好きなだけ食べるような、意思の弱い人間ではない！

おしっこはもらすが、意思は強い！

おしっこは意図的にもらしている！

「そうだな。こんな物より、美味しい物を食べようじゃないか」
レイスも食べるのを止めた！

手に持った土と小枝は、人の家に投げ込んだ！

人の家はゴミ捨て場として活用する！

他人の家の有効利用！

捕まるぜ！

「あたしは、なんたってステーキが食べたい！」

コンセは肉が好き！

子供から大人まで肉は皆のヒーローだ！

いくつになろうとも心の中には肉がいる！

「待て待て！バカ達、その土地にはその土地の名物というものがある！それをいただくじゃないか！」

勇者は旅の醍醐味を知っている！

バカはどこに行ってもカレーとラーメンばかり食べる！

見知らぬ土地に行ったらその名物を食べるのが通だ！

それが決まりであり、礼儀！

「オルファンの名物はなんだ？」

テラは名物を知らなかった！

他人の土地の名物なんて知るわけない！

「あたしも知らない」

コンセも知らなかった！

もうダメだ！

情報時代に情報がなくなった！

砂漠の中に裸で捨てられて、ミサイルで撃たれているような状態！

「人に聞いてみよう」

「それが早いわね」

勇者は人に教えを乞える謙虚さもある！

普通はできないよ！

「おい！オルファンの名物はなんだ！死にたいのか！お願いします！お金を払います！」

アメと鞭と挙動不審！

コンビネーションが絡み合い、情報を出さずにはいられない！もし拒めば、火の海に変える！

「オルファンの名物と言えば、ハンバーガーだね」

ハンバーガーが名物だった！

ハンバーガーはパンの間に肉が詰まっている食べ物！

かじると肉汁が飛び出して、口の中が溢れておぼれる！そんな食べ物！

「じゃあ、ハンバーガー食べようぜ！」

テラはハンバーガー好き！

子供のころはハンバーガーを枕にして寝ていたほどのハンバーガーファン！

「そうだな。せっかくだから一番おいしい店がいいな」

一番なら間違いない！

みんなが美味しいと言うなら美味しい！

自分の意思はそこに存在しない！

情報で美味しいと思ひ込む！

それが通の食べ方！

宇宙空間を見て猿だと思い、誤って発砲した

三人はおいしいハンバーガーの店を探した！

手当たり次第に店に入る！

ローラー作戦！

まずい店は皆殺しだ！

嘘！

火をつけるだけ！

「ここは、お寿司屋さんだな。どうする？ レイス」

お寿司屋さんにハンバーガーがないという保証なんてない！
むしろその心の隙をハンバーガーはついてくる！

「とにかく入ってみようぜ」

「いくらなんでもお寿司屋さんにはないでしょ」

レイスはお寿司屋さんの扉をはずして、投げ捨てた！

邪魔！

「いらっしゃい！」

店員は能天気にあ挨拶をした！

これからこの店をぶち壊されるとも知らずに！

ふへへへへ！

「ハンバーガーをもらおうか！ とびきり新鮮な奴！」

「今、海から取ってきた奴だ！」

ハンバーガーは海で取れる！

岩の下とか、昆布にくっついている！

詳しくは海洋辞典で調べろ！

「ハンバーガーですか？ へい」

お寿司屋さんはお米とお米の間に魚を挟んだ物を出してきた！

本来、パンの部分が酢飯で肉の部分が魚！

これはお寿司屋さんのハンバーガーだ！

「これは・・・おにぎりって食べ物だろ！」

レイスはお寿司屋さんのハンバーガーをむしゃむしゃ！
うまい！

酢飯は酢の味しかない、そして魚は魚の味！
どっしりとした歯ごたえ！

酢飯と魚の歯ごたえが釣り合っている！

なかなか旨みのある魚だ！

この魚は腐っていないな！

その腐っていない魚を腐っていない酢飯が受け止める！

この腐っていないもの同士が釣り合うことによって、食欲が煽られるな！

だが、これはハンバーガーじゃない！

「すいません！出来心で、ハンバーガーと偽りました！」

お寿司屋さんは謝罪文を繰り返している！

「お寿司屋さんの癖に、ハンバーガーも作れないのか！なんでこんなことをしたんだ！」

「金が欲しかった。競馬がしたくてしくて我慢できなかった」

お寿司屋さんもまた、被害者だ！

この食事に勝者はいない、誰もが敗者なのだ！

そもそもお寿司屋さんにハンバーガーを頼むこと自体がおかしいのだ！

そしてその無理な注文を聞いてしまったお寿司屋さんもおかしいのだ！

誰も責めることはできない！

あえて言うならば、時代がいけないのだ！

ハンバーガーと異臭騒ぎ

お寿司屋さんにいたお客さんが、三人に声をかけてきた！

勇者はすごいオーラーが出ているので、よく声をかけられる！

そんな時は返事もせずに、斬る！

返事するのが面倒！

カロリーを消費することが許せない！

「ぐわあああ」

やつつけた！

お客の振りをしていたが、悪の僕だろう！

お寿司屋で見知らぬ人に声をかけるような、礼儀を知らない奴は大
体悪魔だ！

「レイス！今、お客の服を調べたらこんな物が出てきたぞ」

テラはハンバーガーを持っていた！

寿司屋に来ているのに、ハンバーガーを持っていた！

事件の臭いがする！

異臭騒ぎだ！

パニックだ！

おかつぴきを呼べ！

お箸を持つのが北で、お茶碗は玉座の裏の階段に置く！

うろたえるな！

「お寿司を食べているのに、ハンバーガーとは穏やかじゃないわね」

バイオレンスであり日常生活とはかけ離れ、シュールレアリズムの

世界に飛び込んだ世界！

コンセはハンバーガーをじっと見た！

そしてカッとなってお寿司屋さんに、武力弾圧を強める！

「お寿司屋でハンバーガーを頼むわけもないし！頼んだとしたら、

底なしのバカだ！宇宙の藻屑と消えたほうがいい！」

勇者は馬鹿げた行為は許さない！

お寿司屋さんの営業を妨害する、悪質な行為には断固抗議をする！
常識を持って生活をおくってほしい！

「では、この人はハンバーガー職人？試作品のハンバーガーを血の涙を流しながら徹夜で作った！誰かに見せたい！このハンバーガーのときは長編映画でも適わない感動巨編！でも、ハンバーガーの壁を越えたこのハンバーガーをはたして、ハンバーガー屋が判断できるのであるか？ハンバーガーの枠に囚われて、曇った目で味を純粹に判断できるのか？それなら別の調理人に食べてもらおう！それなら、味で判断してくれるはずだ！たこ焼きさんに持っていてみよう！ハンバーガーとたこ焼きは似ているから、色とか！でも、たこ焼きさんはたこの味しかわからないから、肉の味はわからない！不評で、すねたところにこの寿司屋！寿司屋なら味がわかるはずだ！しかし、お寿司屋に入ったらあたし達がハンバーガーと叫んでいた！そこで、あたし達にハンバーガーを試食してもらおうと声をかけたんじゃない？」

コンセの推理！

コンセは推理小説を最初の二行読んだだけで犯人がわかってしまうほどの推理力！

日々推理しかしていない！

推理の合間に息をする！

吸って推理、吸って推理！

あまり吐かない！

バランス調整が悪い！

「そうだったのか・・・」

ハンバーガーはテラが握りしめて汚くなっていた！

テラの手は五週連続でランキング一位を取るくらい汚い！

年間でもいいところにいく！

でもトップはとれない、そこがテラのくそ虫のくそ虫たる所！

「テラ、食べてみるよ！」

「そうだな」

テラは食べた！

「どう？」

「少し考えさせてくれ・・・二年くらい
二年後に答えは出る！」

私達は多くの課題を抱えている

「ハンバーガーなんてどうだっていいんだ！目を覚ませ屑ども！」
勇者は一括！

レイスはテラに左ジャブを伸ばし、左から右を打ち込んで、さらにパンチを重ねる！

言ってもわからない奴にはこうする！

お寿司屋さんにはディーゼルエンジンをプレゼント！

そもそもこの町にやってきた理由はなんだったのか？

よく考えてほしい！

何をなすべきか？

目的を認識し、その認識に対する疑いう明晰な吟味！

目的の内容と仕方はこれを自由として、目的への道を獲得しようとする衝動！

それは、ハンバーガーを食べることだったのか？

お寿司を食べることだったのか？

レコーディングか？

オフィスラブか？

徳川埋蔵金を掘りにきたのか？

違うだろ！

もっと大事なことがあるだろ！

この小説の根幹をなす部分！

そう！

地球空洞説！

地球の中心は空洞ではないのか？

今だかつて誰も見たことのない地球の中心！

そこには、地球の真実が詰まっているという！

しかし、地球の真実を知ることが、今あるこの地球の秩序を壊してしまいかねない！

起源、宗教、多くの今まで信じられていたことが覆ってしまう！
人はそれでも真実を知りたい！

それをよしとしない人達が多くいることも事実である！

そこで妨害にも負けずに真実にたどり着ける、屈強な勇者レイスが
選ばれ旅立ったのだ！

実はそうだったのだ！

ドラゴンとかは嘘だった！

最初から読み直すなよ！

もし、初期と設定が変わっていたとしてもそれは愛嬌！

もしくは気のせい！

「そうだったな。占いで、この町に手がかりを知っている人がいる
とかできたんだったな」

テラは思い出した！

「そうだったの？」

コンセはバカだから思い出せなかった！

「だからハンバーガーなんていいから、手がかりの人を探そう」

ハンバーガーはどうでもよくなった！

危うくグルメ小説になるところを修正した！

「でも、手がかりの人がハンバーガー職人で、ハンバーガーを販売
して生計を立てているってこともないことはないわよ」

しかしハンバーガーの呪縛から逃れることはできない！

勇者はハンバーガーに知らず知らずのうちに、巻き込まれていく！
いずれハンバーガーになってしまう！

「占い師の言っていたことをよく思い出そうぜ！」

テラが今、いいこと言った！

発光ダイオード（LED）灯30基を採用し、スカート内を盗撮しようとした

レイスとテラは思い出していた！

脳の中にこびりついている記憶！

脳のシステムは覚えて出して出して！

いずれ何もなくなる！

生きる為に必要な情報なんて食べることだけ！

でも、がんばって思い出した！

占い師のことを！

主に顔だ！

おもしろい顔だったな！

あの顔だけでドキュメントできる！

顔のことでよかったこと、悲しかったこと！

それらを背負って生きてきた、ドリームストーリー！

悲しくて惨めな部分をクローズアップ！

映画にしたらウケル！

二時間の三部作！

尺があまるので、後編は近所の南からの暖かい風を紹介！

外人とか爆笑して、違う世界への扉をこじ開けていく！

そこには2人の男性の間で心が揺れ動くビジネスマンがいる！

でも、それは罠だから話しかけるな！

話しかけると、低価格をウリにしたサービスなどを続々紹介される

ぞ！

ビジネスマンはビジネスしないといけない！

もし、ビジネスマンがビジネスを忘れたら長いパイプがつき上部に

ファンがある、一般的な汲み取りトイレになってしまう！

これは生物学的にも利にかなっている！

ダーウィンも知らない情報！

おばあちゃんが言ってたから、信憑性は絶対！

「レース！何か思い出したか？」

「ああ、すべて思い出したぜ！」

勇者は思い出した！

記憶になくとも思い出せるのが勇者！

普通は空想とか言われるが、勇者はそれを現実に変える力がある！

「この町に地球の秘密を知る人がいることは確かだ！探そうぜ」
確かだった！

「そうか！ドラゴンはどうするんだ？」

ドラゴンは結局どうすればいいんですか？

「ドラゴンは、いずれ出てくることにしよう」

いずれ出てくることになった！

いつ出てくるかは言わない！

裁判があるかも知れないからな！

三人は地球の秘密を知る人物を探すことに目的を変えた！

運命は常に動いている！

終着点が通過点！

進んでみて、見えなかった物が見えてくることもある！

悪魔の本

三人は町の中をブラブラしながら、地球の秘密を知っている人を探す！

あてもなく町を歩けば、いろんなアクシデントに出会う！

こんな時でも、町を楽しむことは忘れない！

人生楽しんだ者の勝ちだぜ！

一度きりだからおもいつきやろうぜ！

だからと言って、社会のルールは守れよ！

お前らはバカだから、言っておくぞ！

社会に適応してこそ自由！

自分だけが楽しめばいいって考えはよくないぜ！

同じ星に住む同士、仲良く生きていこうぜ！

嘘だ！

ここまでの言葉はすべて、虚偽の情報だ！

人生は戦いだ！

気に入らなければ容赦なく倒せ！

奪い合え！

憎しみから生まれる物は愉快な気持ち！

人を見下して生きることの素晴らしさは言葉では語れない！

見下されるな！

見下せ！

自分以外は他人だ！

他人は自分の為に使うことだけを考えろ！

「やっぱり都会はいいね」

都会は活気に満ちている！

欲望も渦巻いている！

コンセはキョロキョロしながら歩いていると、少年がさびしそうにうつむいていた！

さびしい時はどんな時だ？

金をなくした時だ！

他にはない！

悲しみは、空の財布からやってくる！

「どうしたの？」

コンセは少年の髪をひっぱって顔を持ち上げて言った！

うつむいていると気持ちまでめいる！

顔を上げんかい！

そして下げる！

勝手にこっちを見るな！

肖像権のアレで裁判だ！

「実は僕の大事な本に悪魔がとり憑ついてしまったんだ」

悪魔だって！

ないない！

アレだろ、妄想！

「悪魔？」

勇者はびっくりした！

悪魔にはまだ一度もあつたことないからだ！

同級生にもいなかった！

「悪魔かよ・・・って誰なの？」

テラも知らなかった！

「魔物よ！」

魔物だった！

コンセは漫画で知識を得ていたので知っていた！

「魔物？ハンバーガーと悪魔の違いは？」

勇者は悪魔とハンバーガーの違いがわからない！

見た目は似ているが、ハンバーガーはパンで悪魔はパンではない！

衝撃の事実！

「おいおい、ハンバーガーと間違えて悪魔を食べちゃうかもしれないぜ！」

テラは真っ青になり、黄色くなり、シルバーになった！
色が変わることにより恐怖の度合いを示しています！
高度な表現を、ここにきて手に入れた！

魔法がしゃしゃりでてくる

「悪魔が本にとり憑くただって？おもしろいじゃないの！」

勇者は靈感がすごいから、悪魔も怖くない！

怖いものがない！

靈感のおかげでね！

靈感があれば、人生は開かれる！

夢への橋がかかる！

その橋を火をつけて焼き払う！

火は綺麗だな！

あなたの顔みたい！

へ、ちよつとキザだったぜ！

勇者の靈感がすごすぎて、靈感が毛穴から染み出ている！

有名な霊能者は大体こんな状態になる！

もう、靈感なのか霊能者なのか区別がつかない！

職業病ですね！

悪魔の方が怖がる！

あの、靈感はないわ！

あれ出されたらひくわ！

「悪魔って本にとり憑くの？」

悪魔がとり憑く物の一覧表を公開してほしい！

一般的には悪魔のとり憑く物といえば、鎖骨とかですがそれだけで

はありません！

奴らはその油断が好物なのです！

そしてとり憑く！

今、この小説を読んでいるあなたも、とり憑かれています！

絶対だ！

もし助けてほしければ、自分でなんとかしろ！

なんでも人に頼ろうとする心が、悪魔を吸い寄せていることに気が

つけ！

愚か者！

「大事な本なんだ、悪魔を追い払ってよ！」

子供の頼みは断れないのが勇者！

「悪魔よりも、子供を追っ払おう」

うるさいクソムシめ！

勇者は子供を蹴散らした！

人生の厳しさ！

「悪魔くらい追っ払ってやろうぜ」

「そうよ、どうせ暇なんだし」

勇者達は暇だった！

何かやろうと思っていたが、忘れた！

忘れることで、厳しい現実と戦っていける！

「そうだな！勇者だからな」

勇者は優しいので、子供にも優しい！

絶対に優しい！

さっき追っ払ったのは、優しさが行き過ぎてしまっただけ！

行き過ぎた優しさは、時に残酷！

結果的には、優しくなかったがそれは優しさから生まれたものなので優しい！

「お兄ちゃん達は、悪魔退治できるの？今まで何人もの魔法使いの先生にお願いしたのに、全然退治できなくて・・・お兄ちゃん、僕の本を悪魔から救って！！」

ここにきて魔法使いが初登場！

ファンタジーになってまいりました！

こういうのをみんな待っていたんだろ？

ハンバーガーのくだりとか、今までのすいませんでした！

悪気はないんです！

ただ、ファンタジーと言うのを忘れていたんです！

思い出したので、魔法使い登場！

魔法使いは専門の学校を出て、ちゃんと勉強しないと出来ない！
筋トレでなれると言うのは都市伝説！
信じてはいけない！

火を使うんだ

「悪魔を退治しようぜ」

勇者は困っている人をほってはおけない！

優しさの塊！

勇者って辛いよね！

少しでも悪いうわさが出ると、やりにくくなるから！

「悪魔のことよく知らないけど、大丈夫か？」

テラの言い分もわかる！

未知なものは恐ろしい！

恐怖とは、わからないという部分が作り出す幻！

「悪魔だって火には弱いはずだ！」

火に弱くないものはない！

みんなも火をつかえ！

すべて焼き尽くせばよい！

この世を地獄の業火で埋め尽くせ！

「本は燃やさないでよ」

本は大事なので燃やしてほしくない！

悪魔は追い払ってほしい！

わがまま三昧か！

そうなると誰を燃やせばいいんだ！

悪魔よりも、何かを燃やしたい！

火を見て、ドキドキしたい！

「火がダメなら、水は？」

水でびちょびちょにする！

不快にさせてやるぜ！

水攻め！

「本を濡らさないでよ」

火も水もダメなら、なんなだったらいんだ！

お客様気分か！

注文ばかりしやがって！

この子供は将来、クレーマーに就職だな！

「どうしていいかわからない」

勇者は困った！

「昔、心霊特集で呪文唱えたら霊がいなくなったような」

テラは心霊特集が好き！

科学で説明できないことには夢がある！

「呪文？俺の歌で大丈夫かな？歌には自信があるから」

自信があれば、大丈夫！

オーディションにも受かる！

勇者の歌は悪魔を吹き飛ばす！

そんな付加価値があるはず！

「それならいいわね」

コンセも安心！

靈感がジョロジョロでる

「とにかく君の、家まで行こう」

コンセは少年に優しく言いながら、財布を盗んだ！

コンセは盗賊だから、ついやってしまう！

悪気はない！

悪気がないのに悪いことをする！

悪質！

これはもうね、習慣！

オートマティックになる！

技術が体に染み付いているのだ！

気持ちより先に、体が反応する！

でも、みんなは絶対にしてはダメだ！

捕まる！

拷問！

反省しない！

何度も捕まる！

むしろ捕まりたい！

捕まってただ飯を食いたい！

こうなってしまう！

お前ら程度の考えなどお見通し！

いつのまにか、少年の家までやってきた！

少年の家は燃えやすそうな材質が多いね！

これは火を扱う側としては、非常にいい物件！

「ほう、まがまがしいパワーが立ち上っている」

勇者はわかる！

わかってしまう！

宇宙の成り立ち、時間と空間の関係までもがわかる！

靈感で感じてしまうのだ！

心霊写真の霊の顔が映っているところも、誰よりも早く気がつく！
寒気がする！

アイスを食べたけど！

耳鳴りもあるわ！

耳搔きしすぎた感もあるね！

これは絶対にいますよ！

こんな昼間の時間にですよ！？

ありえないんだ！

見て、この鳥肌！

そして筋肉！

すごい、パワーだろ！

ああ、やばいわ！

おしっこでそう！

いる！

チラッと見えたけど、すごい！

群れでいる！

この家の中は、悪魔が群れで闊歩する無法地帯だわ！

怖い！

恐怖で足がガタガタ震えてきたわ！

おしっこしたい！

「わかるの？」

「それは、どういう意味で言っているんですか」

勇者は少年の髪をひっぱって言った！

まるでインチキミみたいに言われるのは許せないですよ！

こんなに感じているのに！

マジで、やばいから！

この家相を見よ！

「とにかく本を見てよ！！！」

家の中に招待しようとする少年！

しかし、まだ早い！

短気は即死と昔から言われている！

短気な奴はだいたいバカだから、身近な短気には馬鹿と言おう！

「まずは家の周りから見る！」

勇者はそう言うのと、少年の髪を引っ張りながら家の周りを見て回った！

悪魔の出やすい家の設計がある！

もしもそうなら、家を破壊しなければならない！

こなごなにする！

家には家相というものがあり、適当に家を建てると魑魅魍魎の巣窟と化す！

そうなっではもう手遅れであり、家としての価値はなく！

ごみ！

それよりひどい、産廃！

そして家を壊そうとすると、悪魔が壊そうとした人を呪う！

呪われると、今装備していた物がはずせなくなる！

「よくわからない」

勇者は家の周りを見たがわからなかった！

勇者は家のことなんてわからない！

しかし、リフォームしたほうがいい箇所は何個か見つかった！

リフォームには詳しい勇者！

無駄なリフォームを繰り返すことで、永遠に金を奪い続ける錬金術！

このままでは住民は不自由な暮らしをしなければいけない！

住民の生活を考えると、胸が痛む！

「レイス、この狭い玄関はダメだろう！しかも扉が完全にしまらな

いじゃないか！」

テラは見抜いた！

扉の立て付けの悪さを！

これでは冬、冷たい風が部屋に吹き込んでしまう！

雨は玄関に入り込み、カビの原因ともなる！

ここは早急にリフォームしないといけない！

早くしないといろいろな災難に見舞われ、住民は苦しむ！

「すぐにリフォーム計画を作ろう」

勇者は紙と鉛筆を取り出し、設計図を書き始めた！

設計もできる勇者！

寸法は目分量！

フリーハンドで線を引いてしまう！

製図も得意だ！

材料は家を破壊して調達する！

家を材料に家を作る！

無駄がない！

「よし、やってやろうぜ！」

テラは早速、玄関を壊した！

こんな家に玄関などいらない！

ある必要がない！

住めないようにしてやる！

「おいおい、あまり派手にやるなよ！高く売れなくなるぞ」

勇者はのちのち、この家を売るつもりだ！

たいした値段にはならないだろうがね！

まずは、悪魔の玄関からリフォームだぜ！

「玄関じゃなくて、本に悪魔が・・・」

少年は少し疲れて、よくわからないことを話している！

「心配しないで！悪魔は必ず倒すわ。私達を信用して」

コンセは少年に優しく言った！

心をリフォーム

「まずは家の周りから見る！」

もう一度見る、用心深さ！

これが重要！

一度でわからないことも、二度見るとわかることがある！

諦めるな！

弱さを乗り越えろ！

弱さの先には、絶望が待っているぞ！

案外、手がかりって奴は身近にあるもんだぜ！

でも面倒だから、よく見る必要はないな！

むしろ無駄！

諦めが肝心！

そして、無関心になれ！

「よくわからない」

なんでここに家があるのかもわからない！

ここに人が住んでいるの？

そもそもこれは家なの？

わからない？

なんでここにいるのかもわからない？

哲学！

すべての物に疑問を持つ！

「これは、業者に頼んだほうがいいよ」

テラは諦めた！

なんだか面倒になった！

飽きたら、投げ出す！

そうやって生きてきた！

それがポリシー！

「やるだけやってみようぜ！どのみち壊す家だし」

取り壊しが決まった！

「家はいいから、本をなんとかしてよ」

少年は家よりも本を優先した！

しかし、本と家を計りにかければ家の方が重要だ！

本よりも家の方が質量も多いし！

質量が多いものほど重要！

「俺が家に入ってみる」

テラは玄関を開け、家に入っていた！

そして、顔を出した！

「この家は俺がもらった！くひひひひ」

家はテラに占拠された！

あいつは最初からこうするつもりだったんだ！

そう言えば、家がほしいと言っていた！

それがこんな形で達成されるとは！

夢がかなってよかったね！

「なんか家にとられたんだけど」

「しょうがない！あの家は諦めなさい」

勇者は仏のように慈悲深い！

とられた物はしかたない！

言った言わないの水掛け論は不毛と言うもの！

大人の対応が求められる！

「なんで！？あいつをなんとかしてよ」

本をなんとかしろと言ったり、テラをなんとかしろと言ったりされ

ても困る！

「くひひひ！念願のマイホームだ！汚くて臭くて、犬小屋みたいだ

けどマイホームはいいな」

何かを努力したので、念願のマイホームが手に入った！

欲を言えば綺麗で、いい匂いのマイホームがよかった！

法廷でのハイキック

「悪魔の家が奪われたぞ！」

悪魔が巣くう家の資産価値は低い！

悪魔のことを知らせずに家を売ると、後々心靈写真によってバレる！
なので、悪魔の家を販売するときは、写真、ビデオを禁止しろ！

使ったら違約金をむしりとれ！

悪魔の家はテラに奪われた！

「これじゃ、悪魔の本に手が出せない」

コンセは頭を抱えて、そのまま走る！

こうすると、いいアイデアが出る！

この行為には脳を活性化させて、人間の大事な部分を破壊する何かが含まれる！

理性やモラルなどをぶち破って、いいアイデアが吹き出る！

「そうだ、テラに本を見に行かせよう！」

家の中にいるテラに本を調べさせる！

もし、悪魔が無慈悲にテラを八つ裂きにしても我慢できる！

仲間が死ぬことは結構ある！

それを乗り越えて、人として成長したい！

そんな希望もある！

生きている限り成長しなければいけない！

これは生きるものに課せられた使命！

「テラ、悪魔の本を調べるんだ！」

「わかった！」

素直なのがテラのいいところ！

悪魔の本を探しに旅にいくテラ！

「今のうちに家に上がりこみましょう！」

コンセは素早く玄関をけり破る！

コンセは蹴りが得意で、目に付くものは蹴り飛ばす！

蹴ってはいけないものでも蹴る！

そして裁判！

法廷でも蹴る！

「家を壊さないでよ！」

少年は家を壊されては困る！

少年の困る顔は面白い！

勇者は人の困る顔を見ると、生きる活力が出る！

その時、悲鳴！

テラに何かあったのだ！

それよりも今は、家の中の高価な物を奪わなければいけない！

他人の家に上がりこんで一番最初にする行為は、盗賊行為と決まっている！

「ちよっと何をやっているの！悪魔の本をなんとかして！」

少年は少年だから大人の事情はわからない！

「わかった、本をなんとかしよう！テラの声が聞こえたのはここだったな」

勇者は部屋のドアを開けた！

そして閉めた！

素直に開けると思ったら大間違い！

そうはいきません！

「これが、世間の怖さだ！そしてこれは俺の怒りだ！」

勇者は、少年に教えた！

いずれこの子供にもわかる時がくる、こなかったら諦めろ！

生贄

部屋のドアを開けた！

ゆっくりと着実に！

下手に開けると、ドアノブが引きちぎれる！

お前らの頭のようにな！

え？

ちぎれたことないの？

マジで？

初耳だわ、その情報！

レアだね！

部屋の中には本が一冊！

字が書いてあって、四角い！

悪魔の本とはこれのことだろうか？

そしてテラの姿は見えない！

すると本が開き、声が聞こえた！

「ふふふ、生贄を集めてきてくれたようだな！」

本がお喋りをした！

この本にはそんな仕掛けがほどこされているのか！

メカなのか！

生贄！？

それは、まさか勇者達のことなのか！

勇者達を指しているのか？

それとも一緒にいる、悪い霊のことなのか？

肩が重いのはこいつのせい！

「僕の家族は悪魔の本に捕まっているんだ・・・それで仕方なく」

この少年は悪魔か？

完全に法律を犯しているだろ！

裁判だよ！

もしくは相談のうえで示談だよ！

どうやら悪魔の本との約束で、生贄を集めてきたら捕まっている家族と交換してもらえるらしい！

そんなシステム！

人の命を何だと思っているんだ！

「よし！俺の剣で悪魔の本ごと斬ってやる！」

勇者の剣の腕なら本なんて切り刻める！

「僕の家族は本の中に、閉じ込められているんだよ！」
まさか！

これでは手出しができない！

本には手出しできないが少年にはできる！

まったく違う発想！

少年を斬ればいい！

ストレス解消！

「ところでテラは？」

コンセは悪魔の本をビリビリ引き裂いた！

悪気はない！

なんかノリでね！

すごいパワー！

「ぐぎゃー！」

悪魔の本にダメージ！

「本を破らないでくれ！俺もこの本に閉じ込められているんだ！」

テラも閉じ込められていた！

それは別にどうでもいい！

むしろ知らなくてもよかった！

知っても何も思わない！

「お前の仲間も閉じ込めた！本を破れば二度とこの世界には戻れないぞ！」

別にそれはいい！

「お前の目的はなんなんだ！生贄ってなんだ！」

勇者は本を剣で突き刺した！

「私は人間の魂を集め、それを力としてより強力な悪魔になるのだ！」

そもそもその理論がわからない！

魂と、強力な悪魔のつながりがわからない！

意味のわからない精神的なものなのだろうか？

こういう人が、騙されて変な物を買うんだよ！

「魂で強くなれるのか？」

勇者は強くなる必要がある！

強くなるためには、人間の魂もほしい！

「強くなる為には、薬とか筋肉トレーニングしかないのよ！」

コンセは知っていた！

戦いの螺旋

悪魔の本に少年の家族を解放するように交渉を始めた！

勇者は暴力で解決することを良しとしない！

話し合い！

これが大前提！

暴力で解決というのは、本質的には何も解決していない！

なぜなら暴力での脅迫でしかないのだ！

相手には、しこりが残る！

いずれそれによって、また争いが起こる！

戦いの螺旋が続くだけ！

つまりはお互い納得いく解決！

しかしそれは難しい！

そこでお互い、半歩譲る！

これが大人の解決！

いいか！

みんなも譲ることを覚えろ！

弱腰になれ！

不拔けども！

「小僧の家族を解放してほしければ、それ相応の魂をもらわなければ」

魂の要求！

魂がなければ人間は生きられぬ！

そんな理論！

だが、心臓が動いていれば死なない！

魂とは何か？

心とは何か？

ただの電気信号？

魂とは人間そのものの、存在！

魂がなくなれば、体のありなしに関係なく存在がなくなる！

「俺は、世界の覇権がほしい！勇者だから！もし、覇権をくれないなら街中で全裸で暴れまわるぜ」

勇者は生まれつきの支配者！

当然の要求！

世界を動かすにはそれ相応の器が必要！

世界に住む雑魚どものことを考えなければいけない！

雑魚は要求する！

不満も言う！

だが解決する能力はない！

言うだけ！

根本的には支配され、指示されたい！

「ずるい！私は富がほしい！金！お金くれないなら、盗みまくるよ」

コンセは、金がほしい！

人の命よりも金！

金の亡者！

金の量が力なのだ！

富でしか人間の価値は図れぬ！

金の量が定規なんだ！

金であればどんなに愚かでもかまわない！

金でカバー！

「僕は、漫画家になりたい！漫画家になれないなら、引きこもって親の金をあてにする」

少年の要求は漫画家！

漫画家になるだけなら、簡単になれるのに！

売れるかは別の話！

いい、雑誌に載れるかも別の話！

描き初めは夢がいっぱいだが、結局完成しない！

完成しても通して読むと意味がわからない！

大手出版社に持ち込めば、やんわり才能がないと言われる！

自費で出版していいこう！
もう、アーティストぶって意味不明な物を描いていいこう！
親の金で食べていいこう！
世間の方が悪い！
これでいいこう！
それぞれの要求が出た！
さあ、これからどうすればいいのだ！
お互いの主張は平行線！

漫画家

「いい加減にしろ！こうなったらみんなの要求を少しずつ採用しよう！これで文句なし！」

勇者は、一括！

怒る時には怒る！

褒める時には怒る！

いつだって怒る！

常時！

怒る！

いつだって怒る！

怒りの感情だけ特化している！

「でも！」

「うるさい！」

そして勇者は悪魔の本を切り裂いた！

感謝！

ただいなる感謝！

圧倒的な感謝！

しかし無慈悲！

躊躇なし！

うるさい奴はこうなってもしかたない！

みんなも心を鬼にしろ！

周囲の人に鬼と呼ばれろ！

ニックネームを鬼にしろ！

さらにコンセにボディにヒザ蹴り、そして回転ヒジを見舞う！

圧倒的ナイスコンビネーション！

圧倒的に上下に攻撃を打ち分ける！

これはなんとなくやってみた！

コンセとの距離が離れると、勇者はサイドキックでの関節蹴りを少

年の足に見舞う！

足を殺し、ステップによる動きを止める！

少年は左ストレート、さらに足へのローキックでコンセに攻撃！

だがコンセも上体を振りながらパンチを狙って少年との距離を詰めていく！

横へ回ろうとする少年だが、コンセはその進路をふさぐように回り込む！

組みに行く少年だがテークダウンには至らず、コンセのボディにヒザを送って離れる！

コンセが接近してプレッシャーを掛けてくると、少年はインローを入れた後で、ステップして距離をあける！

「収拾がつかない！しかたないから、俺がまとめよう」

勇者はまとめた！

みんなで漫画を描こう！

魂を集める漫画で、売れて金をもうける！

そして世界の覇権をにぎるんだ！

俺達は世界一の漫画家集団になるんだ！

これでみんなの要求を無理なく消化できる！

すばらしいアイデア！

「僕は漫画家になれる！」

「あたしは印税で金持ち！」

「私は魂を集め・・・別に漫画に描いても」

悪魔の本は不満！

しかしそこは我慢しろ！

これだけたくさんの要求があって、すべて通るわけない！

強欲すぎる！

「俺は世界の覇権だけど、漫画界の覇権かよ」

勇者も不満だがしかたない！

しかし世の中譲り合いなのだ！

漫画しかないのだ！

我々の進む道は厳しい！

パナマの大砲

勇者達は漫画家を目指して活動を始めた！
とにかく描いてみる！

まずストーリーを考える！

話ができないことには、漫画を描けない！

出だしだけ考えて、ラストは流れで！

尻すぼみになることを気にしたら、漫画なんてかけない！

そしてストーリーには魂を集めるというキーワードを絡まさなければいけない！

「この魂を集めるって言うのを軸にストーリーを作るか、話のワンポイントとして使うのか。そこはどうする？」

ここは重要なところだ！

勇者はストーリーを担当する！

頭がいいので当然！

「あたしは、恋でドキドキするようなのがいい！」

コンセは女の子なので、恋に憧れる！

素敵な恋愛は、星空に浮かぶ宝石箱！

瞳の中に美しき、夢を見せる！

でも、ドキドキしていたのは病気のせいだった！

病気に打ち勝て！

「僕はやっぱり冒険だな！」

少年は冒険！

探究心！

未知のものへの限らない興味！

困難に負けず突き進む、強い心！

でも、がんばりすぎて心の病に！

現在、療養中！

「本が活躍してほしい」

悪魔の本は、自分が主人公になりたいがそこまで言うとは嫌らしいので本までで止めた！

恥を知る悪魔！

ずうずうしいんだよ！

「俺は料理漫画いい」

勇者は料理が好き！

燃やしたり煮たり、斬ったり！

想像力で、食材をすばらしい料理に変える！

料理とはアート！

その裏で、料理に失敗して食べ物を無駄にする！

そこは描かない！

怒られるから！

これらの案のいいところを集めたストーリーとする！

本を食べながら、恋愛して冒険をする！

画期的なストーリー！

「主人公は？ やっぱりかっこよくしようよ」

女の子はかっこいい主人公が好き！

かっこよければあとは気にしない！

ストーリーの破綻は多めに見てくれる！

「僕は腕が伸びたりするのがいいな！」

腕が伸びると強い！

でも、当たり判定は腕の先まであるので気をつけてください！

少年は腕が伸びるのに憧れる！

だからって伸ばそうとしてはダメ！

人間の構造上不可能！

「まてまて、主人公は特徴がないとダメだ！もっと個性的な案をだしてくれ！今時、手が伸びるなんて当たり前だ」

手が伸びるくらいではダメ！

それは個性とはいわない！

「じゃあ、主人公の周辺住民の手が伸びるのはどうだ！」

悪魔の提案！

「いいね！手だけだと弱いから、パナマの大砲の手も伸びるようにしよう」

勇者の目の付け所はすごい！

「パナマの大砲？」

パナマの大砲とは？

パナマから大砲不足の野球チームに召集された、四番候補！

パワーはあるぜ！

少年には難しかった！

「助っ人外人だよ！」

それならアリ！

手が伸びることで外角の球にも手が届くのだ！

「主人公にはノータッチなんだけど・・・」

コンセは細かいことばかり気にする！

今はパナマの大砲のことだけ考えればいい！

今期の成績のことだけ考えればいい！

「そのパナマの大砲は変化球打てるの？ストレートに強くても、変化球はまったくだめなんてことはないの？」

少年の疑問！

くいついてきた！

これで漫画を読む、少年もくいついてくること間違いなし！

知っているのは進化したいという欲求

「パナマの大砲はパナマ出身なのか？そんな安易でいいのか？読者はそんな部分をつついてくる！」

勇者は読者の考えも見抜く！

見えてしまう！

お前らの思考が手に取るように！

所詮貴様らは勇者の手の中で踊るだけなのだ！

毎週楽しみに勇者先生の作品を待つがいい！

全然話が進まないぞ！

でかいコマにアップばかりだ！

「パナマの大砲の出身地は両国にして、元相撲取りにしよう」

悪魔は相撲が好き！

これは魔界と下界では常識！

元相撲取りならではのパワーが設定に付加された！

これなら軽々ホームランも納得いく！

立会いで強く当たって、流れでフォアボールだぜ！

「元ってことは相撲辞めたの？理由は？」

少年の疑問！

あまり触れてほしくない！

そこは、触れないで！

「それはねえ・・・相撲、バット・・・そんなことはしてないぞ！」

ここの設定を間違えると、相撲協会にしかられる！

二度と漫画の中に相撲取りをだすことができなくなる！

そうなのは困る！

表現が限定されてしまう！

むしろ気になって、相撲のことばかり描いてしまいそう！

「辞めた設定じゃなくて、掛け持ちならいいんじゃない？」

コンセの起死回生のアイデア！

相撲を取り、野球もする！

張り手でボールをホームラン！

バットで相撲取りを押し出し！

これなら大丈夫！

「パナマはどこに行ったの？」

少年は余計なことばかり気がつく！

パナマではなく両国では、インパクトがない！

「両国は国が着くから国と扱って、両国って国の中にパナマ県があることにしよう！」

勇者はいいところに気がついた！

新たな県が両国現れた！

そして両国は国になった！

進化！

成長を諦めたらそこで終わりだぜ！

可能性を信じろ！

可能性を鵜呑みにすれば、夢は手に入る！

悪魔退治

漫画のストーリーは、完成した！

ストーリー内容は、自宅や公園のトイレで若干戸惑う人の話！
斬新！

今までなかった切り口で攻め入る！

だが漫画を描くという作業は困難を極めた！

漫画には絵が必要なのだ！

「人手が足りない！」

少年が漫画を一人で描かなければいけない！

「レイス、このままじゃいつになって漫画が完成しないわよ」

「そうだな・・・」

「二人が手伝ってよ！」

少年の意見ももっともだが、二人の意見は違った！

二人は手が疲れることはしたくない！

そもそも人に頼るな！

自分のことは自分でしないと！

頼れるのは自分だけ！

「しかたない」

悪魔の本は、少年の家族とテラを解放した！

こいつらを使って漫画を描くのだ！

「お母さん！お父さん！無事でよかった！早速、枠線を引いて！」

お母さん、お父さんは枠線を引き始めた！

大してやくにたたないけど、いないよりはマシ！

これで作業が進む！

「俺はいつたいていどうしていたんだ・・・そうだ！この本が俺を！」

テラの怒りが爆発して、本を手に取りムシャムシャ食べた！

雑食だぜ！

そしてテラは悪魔を体内に取り込み、取り込んだ！

悪魔の力を手に入れたぜ！

これにより少年の家族、テラは解放された！

一件落着！

あとは少年が漫画を描き、勇者が世界の覇権を得るだけ！

「よし！漫画が完成して人気が出たら勇者レースの名前で発表するんだぞ！」

人気が出なかったら、汚点なので勇者レースの名前をつけてはいけない！

「原稿料は私に渡すのよ！」
コンセの取り分！

「絶対、いい漫画を描くからね」

少年は夢をかなえる為に、がんばる！

少年の家族は付き合わされる！

超能力探偵

地球の秘密を知る人物を探す勇者達！

しかし、人探しは簡単ではない！

だって人は沢山いるんだから！

目当ての人が宇宙戦艦とかならずすぐわかるけど、ただの人間だから見つけにくい！

「見つからないね」

勇者は諦めた！

無理だもん！

人生は短い！

うまくいかないことばかりである！

人により人生の環境はさまざまであり、必ず努力が報われるわけではない！

なら、諦めようぜ！

明日も、その次の日もいいことなんてないよ！

死ぬまで続く、苦行！

死んでからも地獄での拷問！

前を向いて進めば、足元見えずに崖から落ちる！

下を向いてれば、車に轢かれる！

上も下も気をつければ、ストレスで病気になる！

「人探しの専門家っていないの？」

コンセは気がついた！

何にでも専門家がいます！

言った者勝ち！

「それなら超能力探偵だろ！」

テラはその情報を、拾ったオカルト雑誌で手に入れていた！

超能力探偵！

警察でも超能力を利用して、捜査をしている！

犯罪をすると、超能力者がやってくるぞ！

逃げてでも超能力で追ってくる！

早速、雑誌を頼りに超能力探偵のところにやってきた！

何も言わずに、超能力探偵の事務所に乗り込む！

喋るのが面倒だからね！

勇者は煮えたぎった脳みそのメニュー画面でオン・オフしてやった！
みんなもやろうぜ！

「何ですかあなた達は！事務所で暴れないでください！」
事務所で暴れると困るので、みんなはやめようぜ！
迷惑！

さじ加減を間違えると、通報されるぞ！

「俺達は探してほしい人がいるんです！」

勇者は客！

客は神だ！

崇めろ！

讃えよ！

「お客さんですか・・・では話を聞きましょう」

超能力探偵は、静かに目を閉じて集中し始めた！

「俺が探して欲しいのは、ティラノサウルス！」

テラはティラノサウルスを探している！

ティラノサウルスを見つけたら、Onlineで公開して稼ぐつもりだ！

大富豪までのフローチャートができている！

「ティラノサウルスですか？絶滅していないようですが」

ティラノサウルスは絶滅していた！

超能力を使えば、絶滅しているかもわかる！

研究とかはいらない！

見えてくる

「私は、生き別れた妹を探してほしいの」

コンセは生き別れの妹を探している！

急に新たな設定が飛び出た！

「それはつらい体験をしましたね。それはいつ頃のお話ですか？」

情報収集！

「妹はいません！」

妹はいなかった！

虚言！

こんな悪い癖が、コンセにはある！

悪気はないが、悪意はある！

「いたずらは止めてください！」

「あたしはカップ酒と乾きもので大酒宴する必要があります」

叫べ！

酒だ！

辛いことは酒で洗い流す！

辛くなくても洗い流す！

酒が飲めればそれでよい！

酒で体も心も満たす！

「いや、それは知らないですけど。やりたければどうぞ」

許可が出た！

超能力許可！

「家の中に3年間ため込んだ生活ごみがあるんですけど、どうすればいいんでしょう？」

相談！

こんなこと近所の人にバレたらまずい！

臭いで気が付かれないように、ガソリンを撒いて臭いを隠している！
地区の住民からは危険人物としてマークされている！

「ゴミは捨ててください！ここまで超能力関係ないことばかりだね、何か探して欲しい物があって私のところ来たんじゃないの？」

超能力に関係ないことばかり聞くと、超能力探偵はカッとなる！

「超能力で当ててみて」

コンセは挑戦的！

この手の質問はしてはいけない！

「わかりました。あなたは今、困っていることがありますね」

誘導尋問！

「困っています！なんでわかったんですか？あたしの心を見透かしているんですか？丸見えですか？奥底まで見えちゃってますか？いつも心の奥底からアイツがやってくるんです！アイツは笑いながらついて来る！そして見ているんです！どこまで行っても同じ距離でついて来る！どんどん大きくなっていく！今では二メートル以上あるんです！最初は黒くて、黄色くなって緑！小さい声で、まだ足りないって言っているんです！あっ、臓器とかも見えていますか？どこが悪いんですか？治るんでしょうか？あたしは元の体に戻るんでしょうか？死にたくない！これからなんです！」

病！

「あの、ちょっと・・・」

超能力探偵は困った！

誰でも困る！

困らない人はいない！

「おいコンセ！気のせいだ！」

勇者にも見えていた！

そして、的確なアドバイス！

この世で起きることがら、森羅万象すべて気のせい！

いちいち意味を考えたり、理屈を考えるだけ無駄！

それよりその考える時間を有意義に生きたほうがいい！

「そこの二人はほっておいて、勇者の探し物を見つけてもらおう」

テラとコンセなんてどうでもいい！

いなくてもいい！

全然問題ない！

いなくなっても読んでる人も気がつかない！

そんな扱い！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0114s/>

今日から勇者になりました

2011年10月5日00時59分発行